

## ■ 資料編

1	小千谷市の概況	67
2	評価結果一覧表	68
3	統計資料	70
4	市民意向調査概要～市民による復興施策への評価	82
5	市民ワークショップ概要	83
6	子どもワークショップ概要	89
7	行政による復興事業検証概要	93
8	中越大震災ネットワークおぢや	100
9	十二平の今～集団移転を振り返って	101
10	新潟県中越大震災復興基金 小千谷市利用状況	104

# 1 小千谷市の概況

## ■市の概要

小千谷市は新潟県のほぼ中央に位置。日本一の大河、信濃川が市の南東部から北東部へと流れ、その信濃川が生み出した、全国でも類を見ない規模の河岸段丘の地形が特徴です。

地名の由来は、平安時代の「和名抄」に見られる魚沼郡の四つの郷のうちの一つ、「千屋郷」が起こりと言われています。近世には街道の宿場町となり、信濃川水運の船着場、小千谷縮の生産地や交易地として発展、昭和 29 年 3 月 10 日に小千谷市が誕生しました。

関越自動車道や国道、JR などの交通網が充実。豪雪に見舞われる厳しい冬と、その雪解けとともに訪れる穏やかな春がもたらす美しい自然の中で、小千谷市特有の文化や産物が育まれ、人と自然が織りなす多彩な活動が息づいています。



## ■市章



雪国にちなみ外郭を雪の結晶で表わし、中央に「小」の字を図案化し、円でまとめてあります。克雪都市・小千谷市が市民の和と協調により大きく発展することを象徴しています。  
(昭和 59 年 8 月 11 日制定)

## ■市の花「すいせん」



すいせんは、雪消えとともに春を告げる花です。  
また、冬の寒さに負けない生命力の強い花として、多くの家庭で栽培され、市民に親しまれています。  
そうした克雪への思い、雪融けの春への思いをすいせんに託しました。  
(昭和 59 年 8 月 24 日告示)

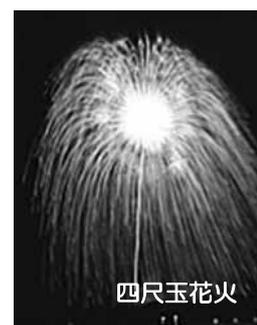
## ■市の魚「錦鯉」



中越大地震で甚大な被害を受けた錦鯉は、被災とその後の復興を象徴することから、震災から 10 年を迎える平成 26 年 10 月 23 日に市の魚に制定されました。  
雪国の清らかな水と伝統の技法で育てられた独特の色調を持つ流麗な体系から、「泳ぐ宝石」と呼ばれ、国内外の多くの方に親しまれています。  
(平成 26 年 10 月 23 日告示)

## ■主要データ

- ・面積 155.12 km<sup>2</sup>
- ・周囲 86.1km
- ・広ぼう 東西 17.21km 南北 20.01km
- ・標高 最高 581m 最低 27m
- ・市役所の所在地  
〒947-8501 小千谷市城内 2 丁目 7 番 5 号  
東経 138 度 48 分 北緯 37 度 14 分
- ・人口 37,734 人 (平成 26 (2014) 年 8 月末現在)
- ・世帯数 12,715 世帯 ( // )
- ・名物 錦鯉、牛の角突き、へぎそば、四尺玉花火、魚沼産コシヒカリ、小千谷縮など



## 2 評価結果一覧表

### 長期（新生段階）評価表

課題番号	方針番号	方針	計画期間			評価		
			短期	中期	長期	総合	アンケート【達成度】	行政【進捗状況】
1	1	住宅の復興を支援し、生活の早期安定を図ります。				A	A	A
	2	地域の人が安心して暮らせるよう、心と身体のケアの仕組みを充実させます。				A	A	A
	3	高齢者・障害者の生活再建支援を進めます。				A	A	A
	4	子どもたちが、生きいきと、明るく過ごせるまちにします。				A	A	A
	5	子育て環境の整備をして、「子育て世代の住みやすいまち」にします。				A	A	A
	6	若者の定着のための支援を進めます。				C	C	A
	7	スポーツを通じて健全で健康なまちづくりを進めます。				A	A	B
2	1	経済の早期復興を支援し、市民生活の安定を図ります。				A	A	A
	2	農業基盤の早期復旧を支援します。				A	A	A
	3	新しい農業のあり方を目指します。				O	O	B
	4	地場産業の高度な技術を活かし、新産業の創造や、新しい分野への進出を支援します。				C	C	A
	5	商店街の活性化を図ります。				C	C	A
	6	豊かな自然と文化が織りなす、「復興のまち小千谷」をキーワードに、知名度を活かした販路拡大と観光振興を目指します。				B	O	A
	7	震災特区を利用して、産業の活性化を進めます。				断念	C	断念
3	1	道路・河川の本格復旧を進めます。				A	A	A
	2	ガス、上下水道等の早期本格復旧を進めます。				A	A	A
	3	二次災害を防ぐための調査と工事を進めます。				A	A	A
	4	情報通信基盤の整備を進めます。				A	A	A
4	1	復興のために、市民のエネルギーを結集します。				A	A	A
	2	地域の団結力を維持し、リーダーとなる人材を育成します。				A	B	A
	3	まつり、イベント、歴史・文化を通じて、まちを活性化します。				A	A	B
	4	国際社会に対応した地域コミュニティをつくります。				C	C	A
	5	コミュニティビジネスや地域通貨を活用して、地域課題の解決を図ります。				C	C	C
5	1	「私たちのまちは、私たちで守る」を基本に、防災教育、訓練、仕組みづくりを進めます。				A	A	B
	2	被災の記録、震災体験を保存、記録し、その教訓を発信します。				A	A	A
	3	災害時の情報伝達手段の整備と確立を図ります。				A	A	A
	4	震災の教訓を活かし、他地域、全国への貢献をします。				A	A	A
	5	住宅、建物、まちの防災力を高めます。				A	A	B
	6	災害時の応援体制や、サポート体制をつくります。				A	A	A
6	1	財政破綻を起こさないペースで復興します。				A	A	A
	2	行政コストの削減を進めます。				A	A	A
	3	復興のなかで行政運営の進め方を考え直します。				A	A	A
	4	復興のための資金作りを進めます。				A	B	A
	5	全国からの注目に対して、誇りを持って復興を進めます。				A	A	A

#### ■評価区分解説

【総合評価】市民アンケート及び行政検証の結果を合わせて総合判定

- A: 期待する成果を達成 (A+A、A+B)
- B: 更なる充実が求められる (A+O)
- C: まだまだ取り組みが必要 (C+C、A+C)
- O: 市民の評価が分かれている (B+O)

【達成度】市民アンケートの結果を基に判定

- A: 高評価 (達成／がんばっている)
- B: 評価は高め (道半ばが多い)
- C: 低評価 (努力不足／やっているとはいえない)
- O: 市民の評価が分かれている

【進捗状況】行政による事業の検証を基に判定 (復興計画掲載事業の実施状況(率))

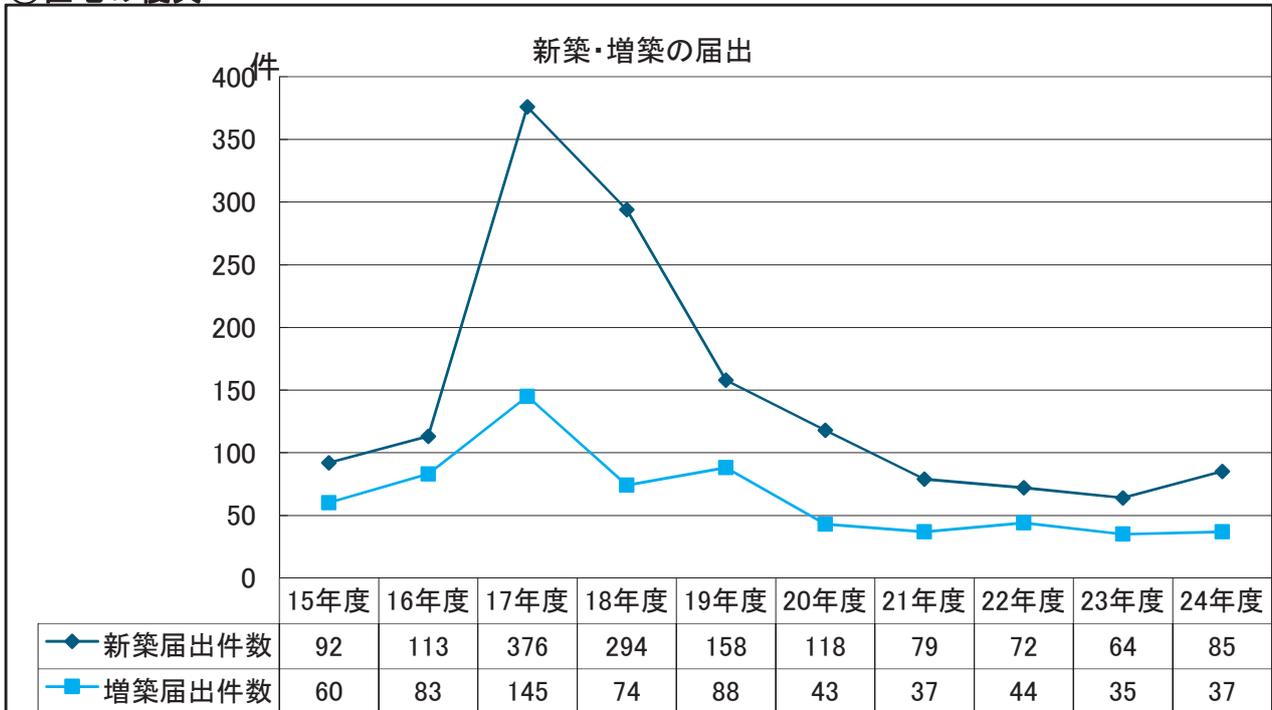
- A: 予定通り進んでいる (100%)
- B: ほぼ予定通り進んでいる (75%～99%)
- C: 予定より遅れている (74%以下)
- O: 評価が分かれている

今後の方針	計画実施による主な成果	引き継ぐべき主な課題	【参考】	
			短期検証時点での方針	中期検証時点での方針
完了	住宅再建の推進、防災集団移転の実施、公営復興住宅の整備		概ね達成	完了
総合計画で対応	被災者の不安等の緩和	訪問活動による市民ニーズの変化を捉えた健康相談や保健指導の継続	復興計画で継続	復興計画で継続
完了	高齢者等住宅改修、介護予防事業の実施		総合計画へ移行	完了
総合計画で対応	カウンセラーによる被災児童の心のケア、交通安全推進	心の健康を育み安心して学べる環境づくりの継続的な推進	復興計画で継続	総合計画へ移行
総合計画で対応	子育て支援センター、学童保育の充実	子育て環境の更なる充実	復興計画で継続	総合計画へ移行
総合計画で対応	就職支援アドバイザーによる高校生の就職支援	雇用の場やまちの魅力拡大による若者定着のための貴族的支援	復興計画で継続	総合計画へ移行
総合計画で対応	スポーツ交流の推進	スポーツに触れる機会の提供と施設整備の検討	総合計画へ移行	総合計画へ移行
完了	生産設備復旧推進、中小企業への金融支援		復興計画で継続	完了
完了	水田等農地復旧		概ね達成	完了
総合計画で対応	防災グリーンツーリズムの推進、6次産業化による起業	農村地域の特色を活かした商品開発・起業支援、交流促進による定住化の促進	総合計画へ移行	総合計画へ移行
総合計画で対応	産学官連携による技術の高度化推進	地場産業の活性化支援や産学官連携による製品開発	総合計画へ移行	総合計画へ移行
総合計画で対応	仮設店舗設置、復興イベントの実施	まちのあり方に合わせた商店街の活性化支援	復興計画で継続	総合計画へ移行
総合計画で対応	おぢやファンクラブ設立、販路拡大	都市交流推進による販路拡大や魅力発信による観光人口の増	復興計画で継続	総合計画へ一部移行
完了	※震災特区が認められなかったため実施できず		実行できない	完了
完了	道路河川の復旧、災害対策推進		概ね達成	完了
完了	ガス上下水道の復旧、災害対策推進		概ね達成	完了
完了	宅地調査による二次災害防止		総合計画へ移行	完了
総合計画で対応	光通信による高速通信網整備	利便性向上のための継続的な基盤整備	総合計画へ移行	総合計画へ移行
総合計画で対応	NP0法人や地域団体の結成推進	市民と行政の協働関係の構築によるまちづくり	復興計画で継続	総合計画へ移行
総合計画で対応	町内集会施設の再建、防災リーダーの養成	地域人材の育成や地域団体の活動支援	総合計画へ移行	総合計画へ移行
完了	文化財の復旧、伝統文化・芸能の再開		復興計画で継続	完了
総合計画で対応	外国人向けガイドブック等の作成	国際化するコミュニティへの対応力の向上	総合計画へ移行	総合計画へ移行
総合計画で対応	特産品販路拡大、農家民宿等の起業	小千谷市の文化や特色を活かした地域ビジネスや防災グリーンツーリズム等の更なる推進	総合計画へ移行	総合計画へ移行
総合計画で対応	全地域での自主防災組織結成、防災学習の推進	防災教育の更なる充実や市民向け防災マニュアル等の整備	復興計画で継続	総合計画へ移行
完了	被災体験の記録、経験と教訓の伝承推進		復興計画で継続	復興計画で継続
総合計画で対応	緊急告知ラジオ、防災メール等伝達手段の充実	情報伝達手段の継続的な整備	復興計画で継続	復興計画で継続
総合計画で対応	ネットワークおぢやによる全国への貢献	ネットワークおぢや等による他地域への支援、経験や教訓の伝承	復興計画で継続	総合計画へ移行
総合計画で対応	住宅、小中学校の耐震改修推進	住宅耐震化など長期的なまちづくりの取り組み	復興計画で継続	総合計画へ移行
完了	要援護者避難支援制度確立、企業・自治体との災害協定締結		復興計画で継続	完了
完了	健全財政の堅持		総合計画へ移行	完了
総合計画で対応	職員人件費の削減、ごみ有料化によるコスト減等	行政運営の中で常に取り組んでいくべき課題	総合計画へ移行	総合計画へ移行
総合計画で対応	行政改革の推進	行政運営の中で常に取り組んでいくべき課題	総合計画へ移行	総合計画へ移行
完了	オークション等を利用した市有財産の売却		総合計画へ移行	総合計画へ移行
完了	復興イベントによる小千谷の元気発信、交流活動の推進		復興計画で継続	復興計画で継続

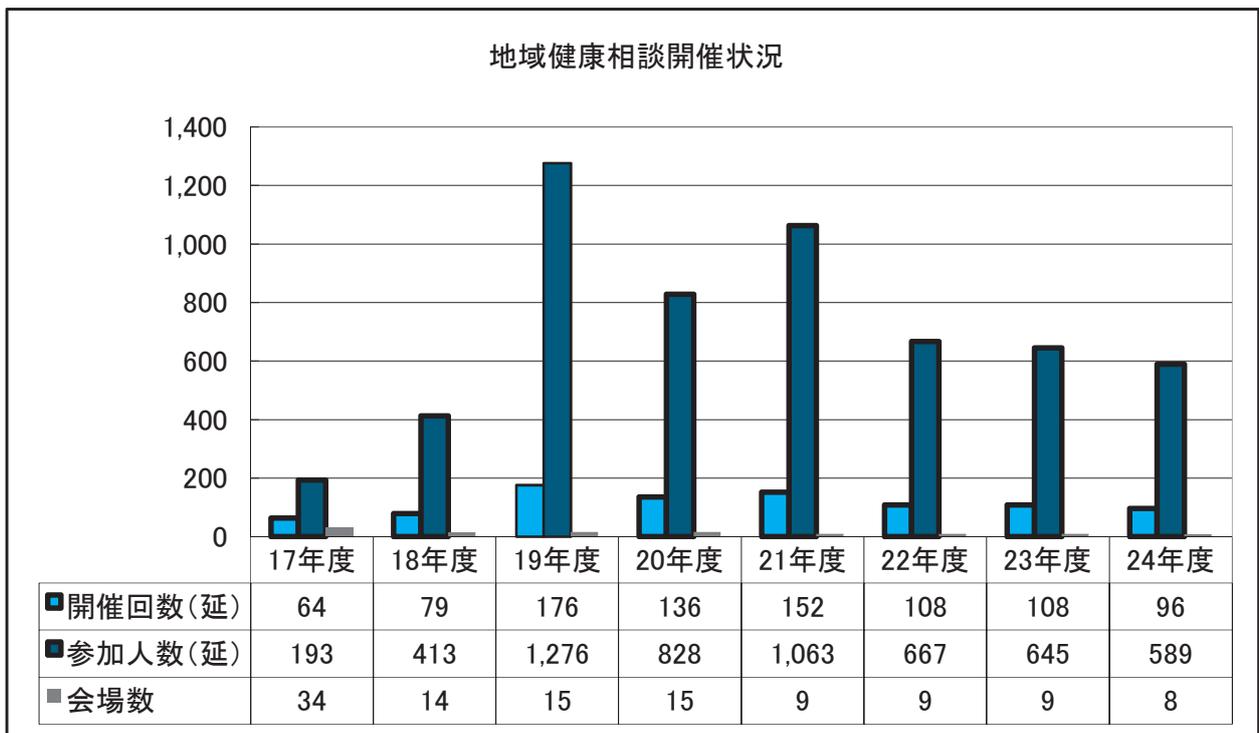
### 3 統計資料

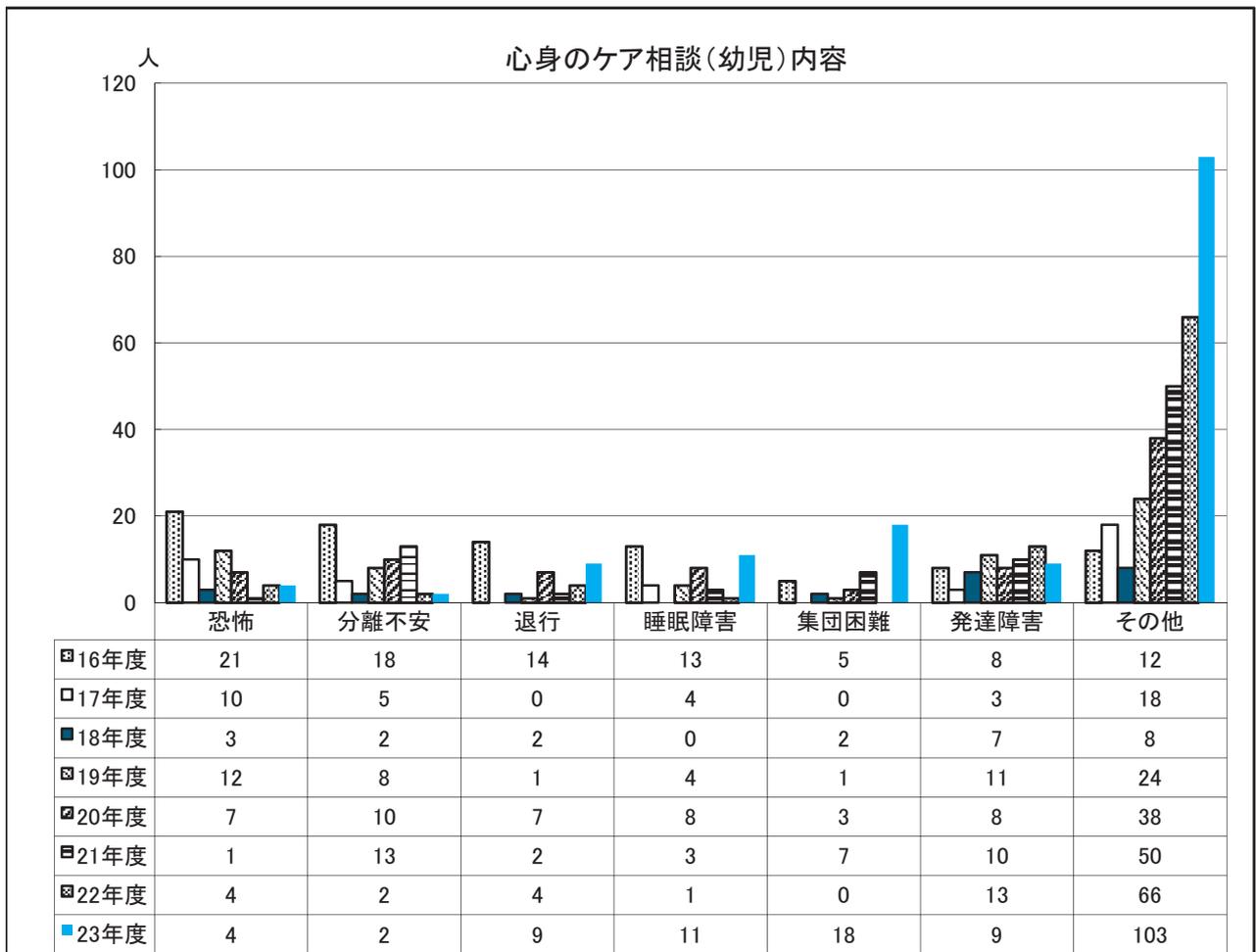
#### 復興課題1 市民生活の復興

##### ①住宅の復興



##### ②心身のケア

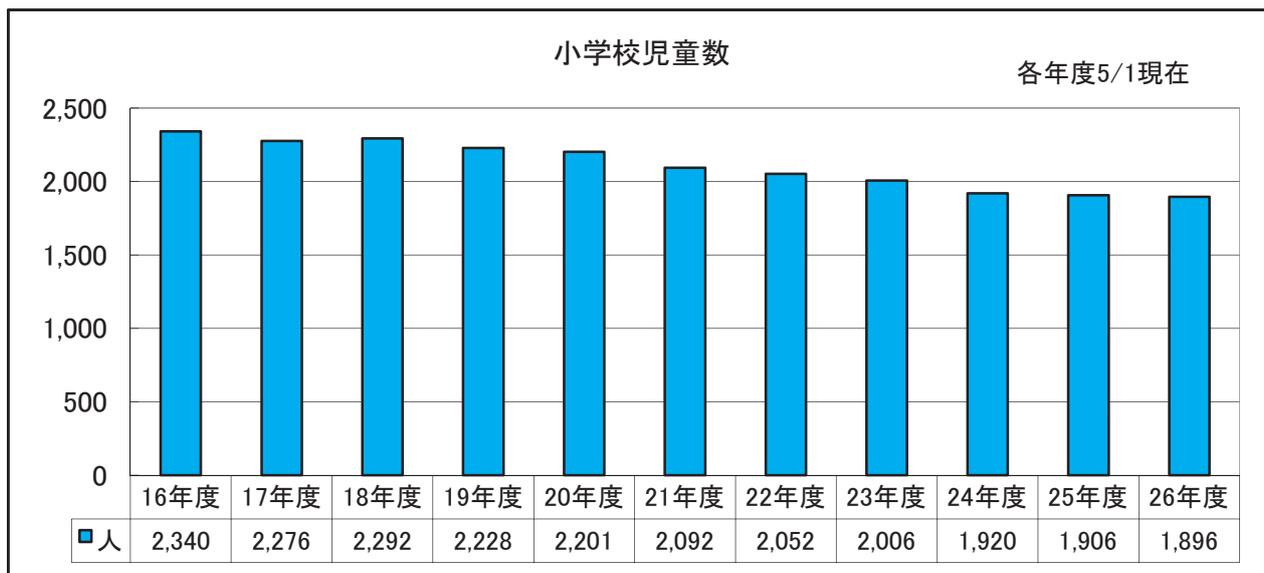


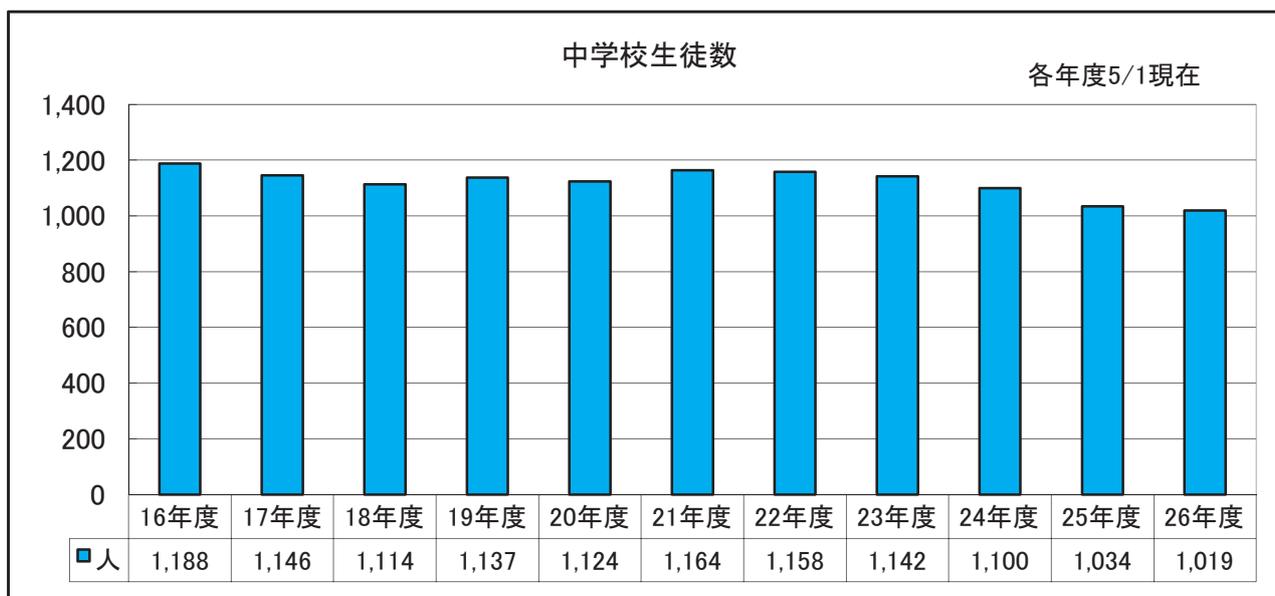


※「その他」の中には、生活習慣や親自身に関する相談内容が主なもの。震災に起因する相談件数は少なくなっている。

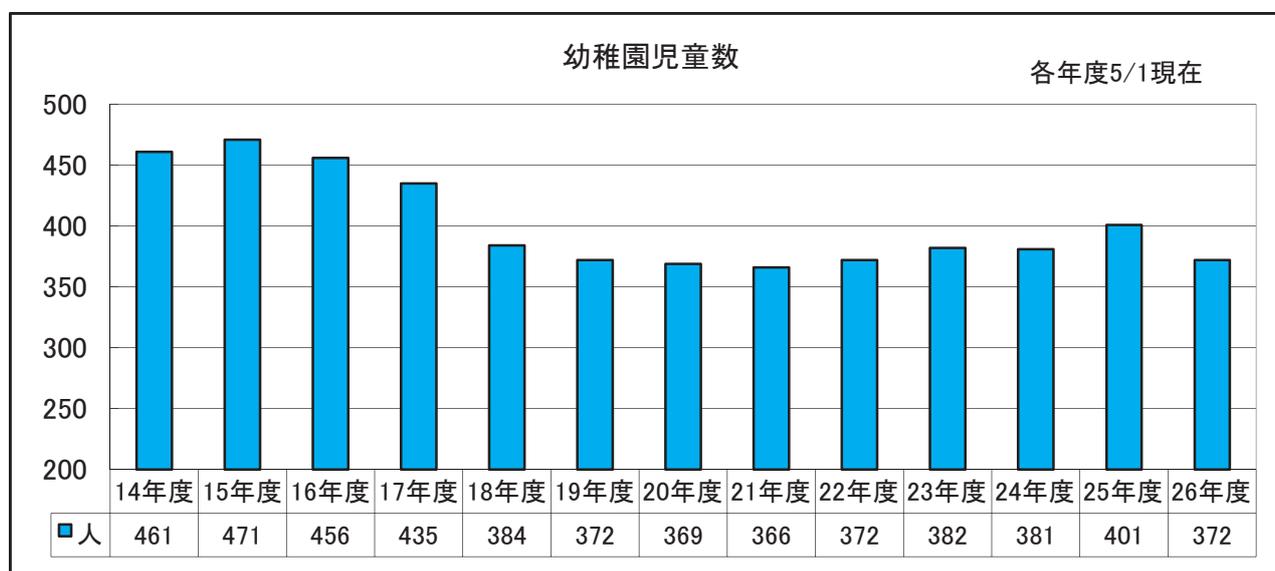
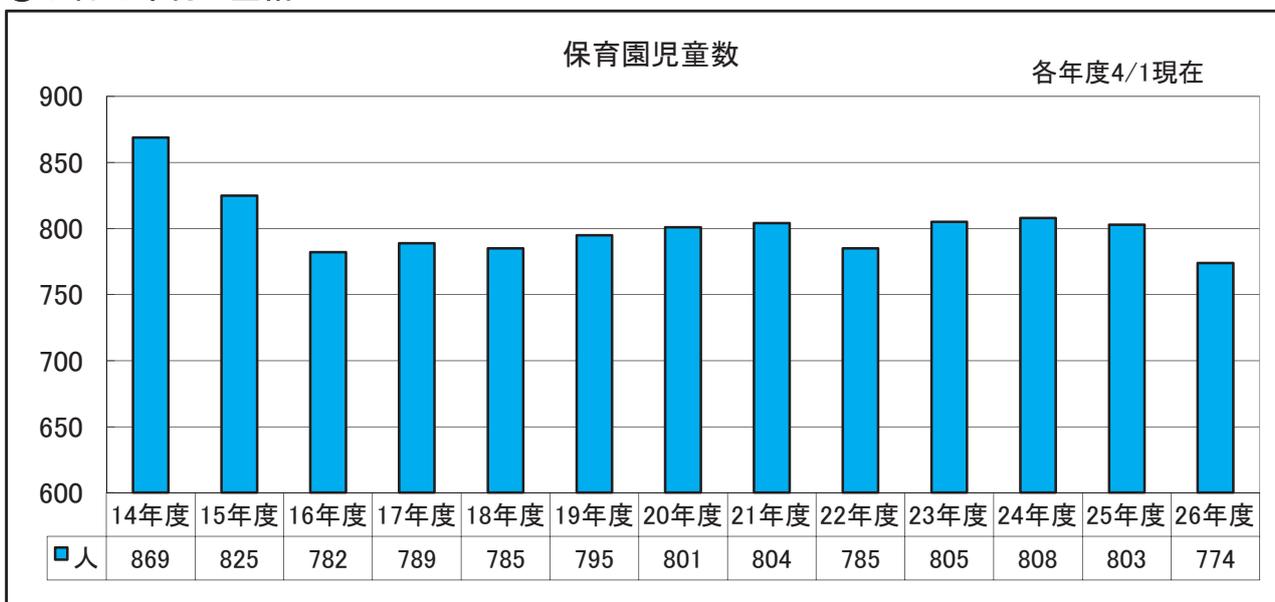
※24年度以降は対象者を変更した事業で継続しています。

#### ④子どもが遊び、学べる環境整備

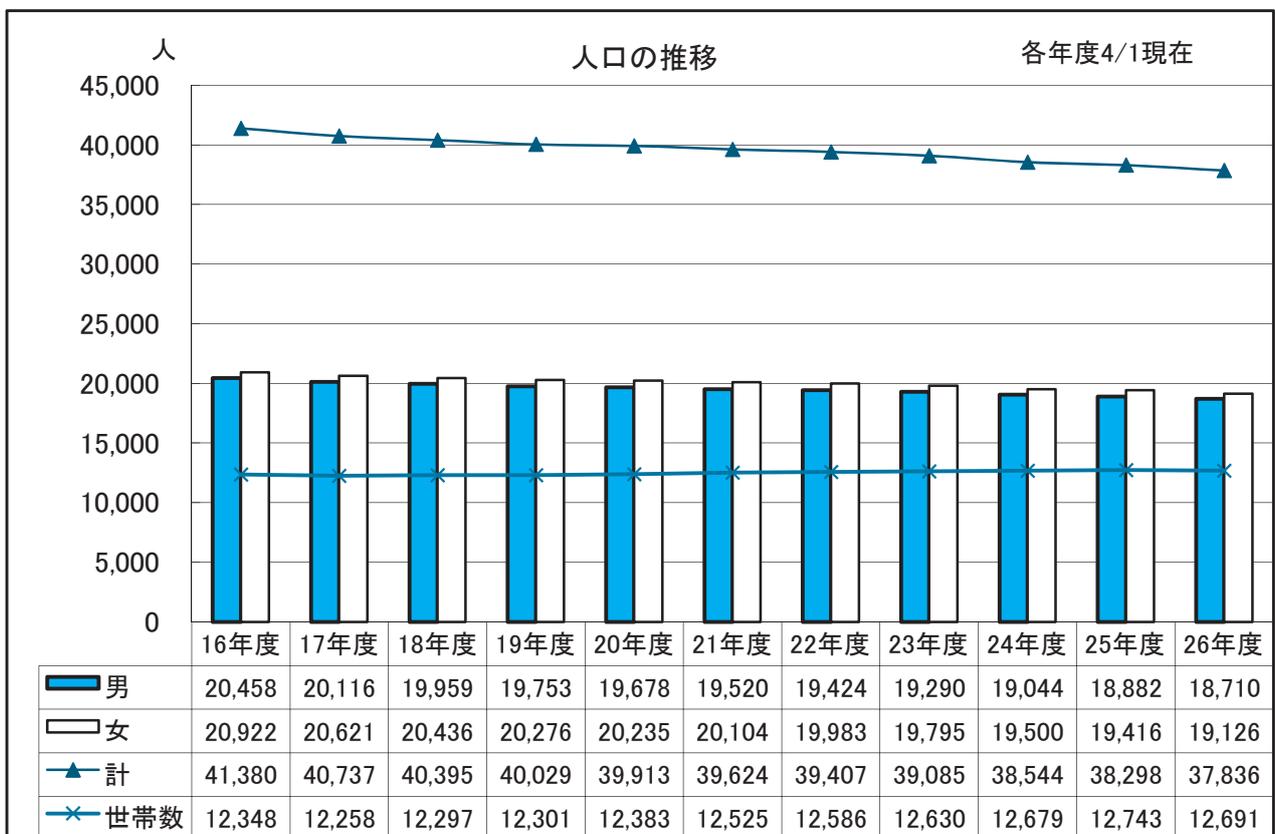
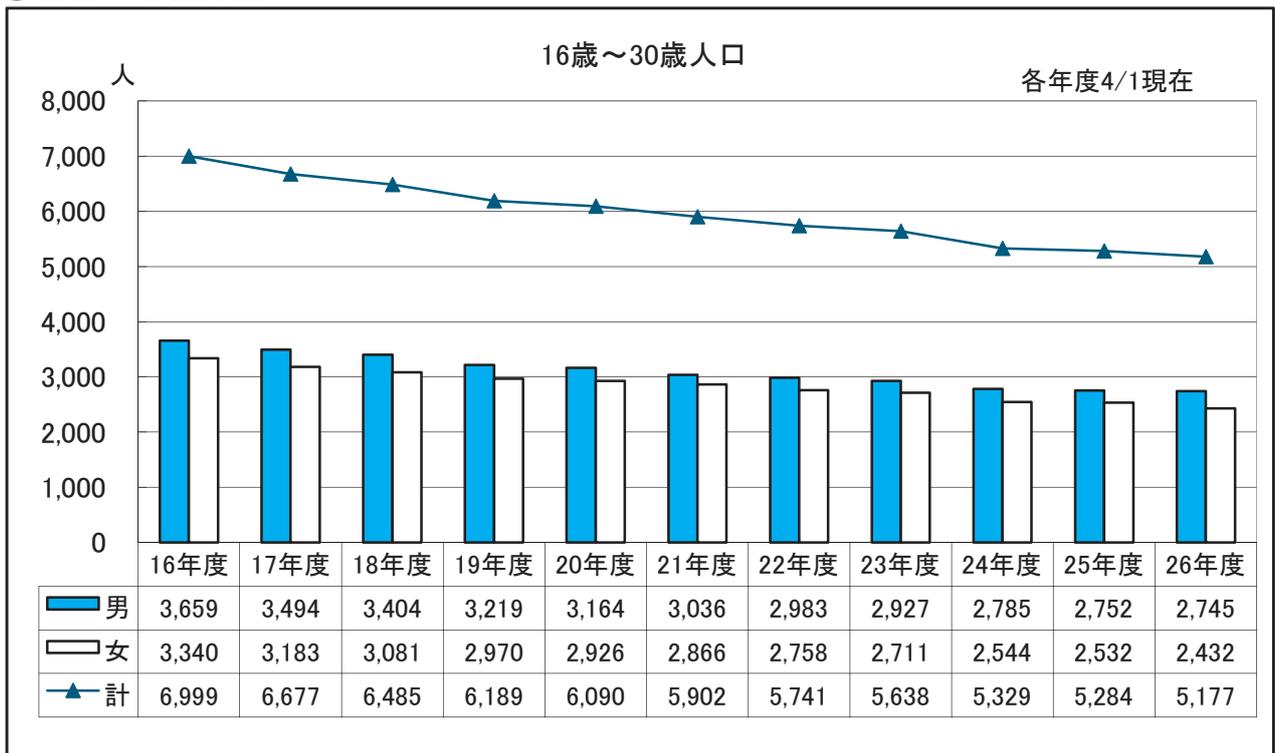




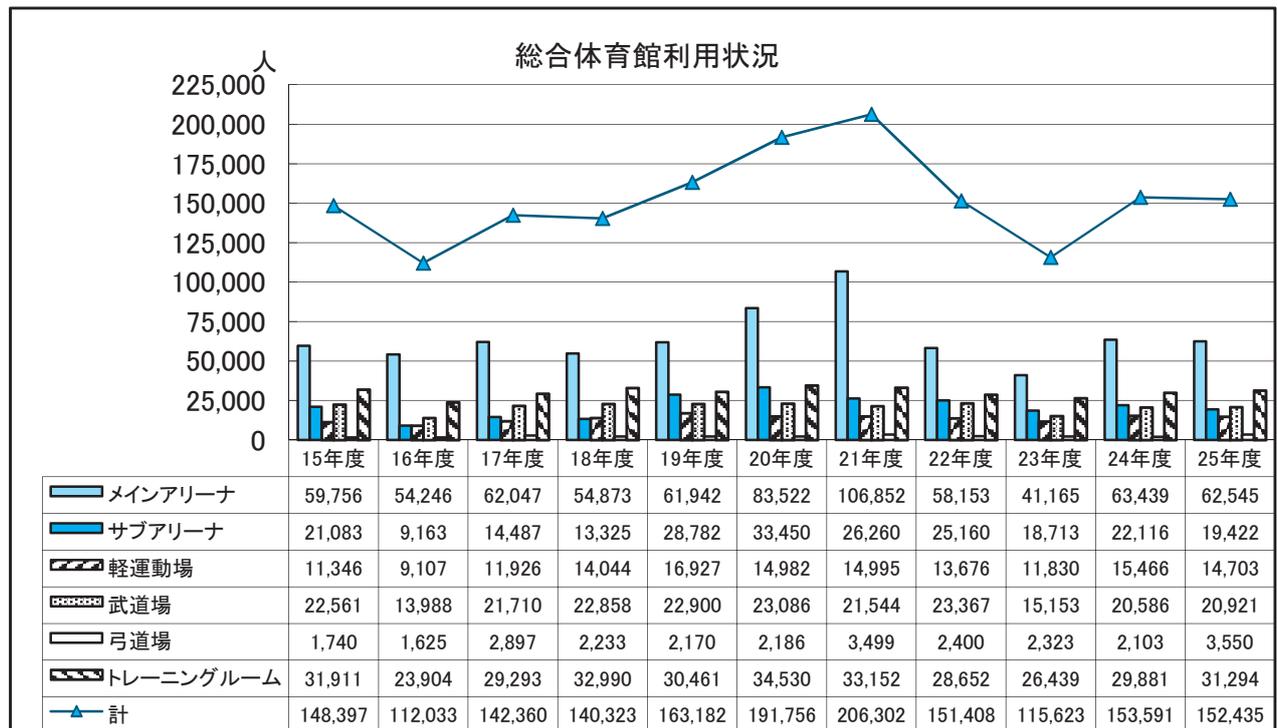
## ⑤子育て環境の整備



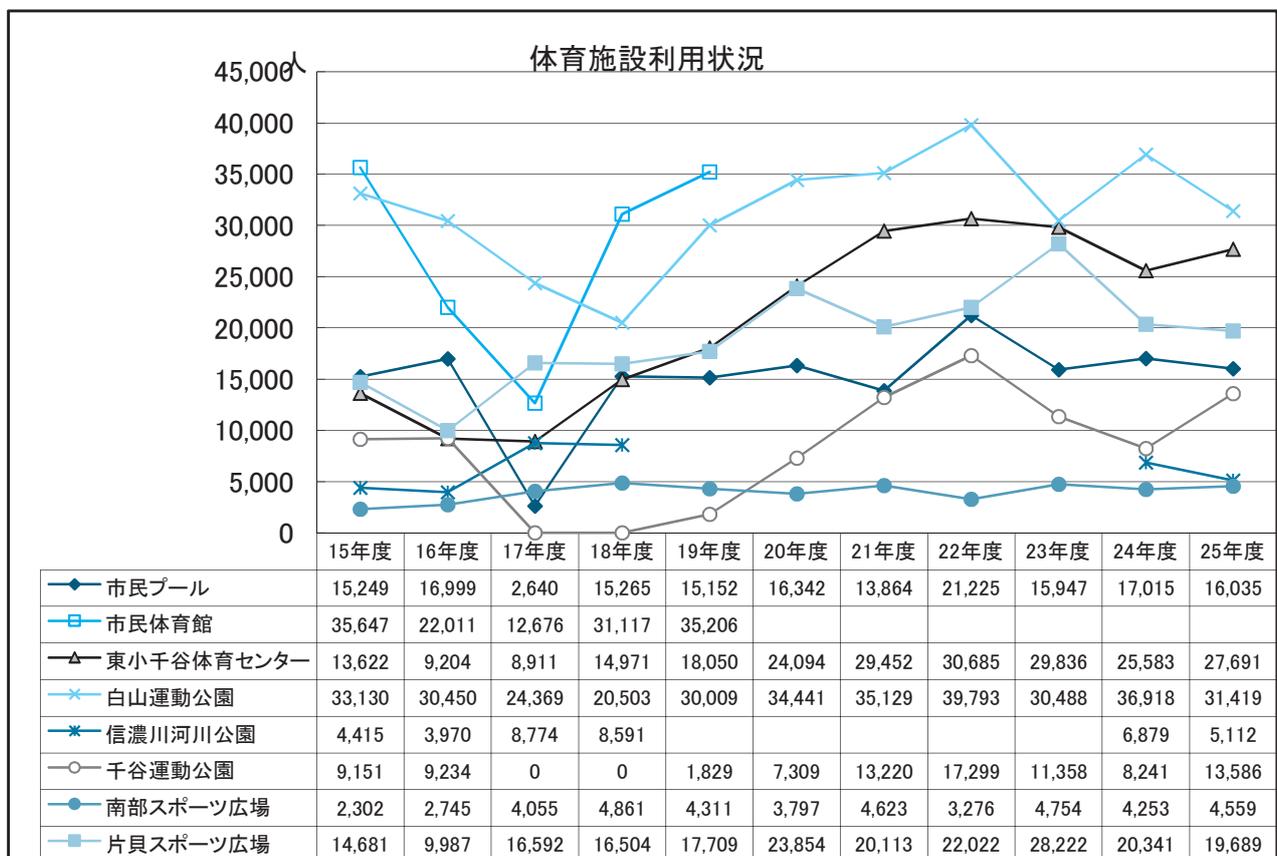
## ⑥若者の定着支援



## ⑦スポーツ振興



東日本大震災による被災者受け入れのため、平成23年3月18日～4月30日まで休館。



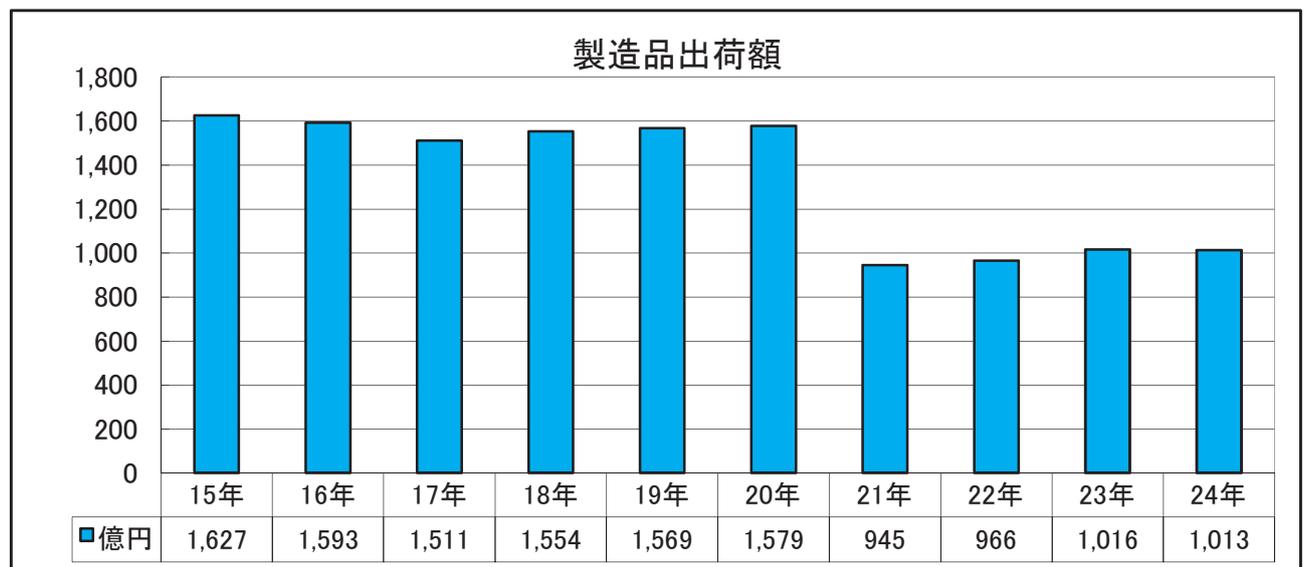
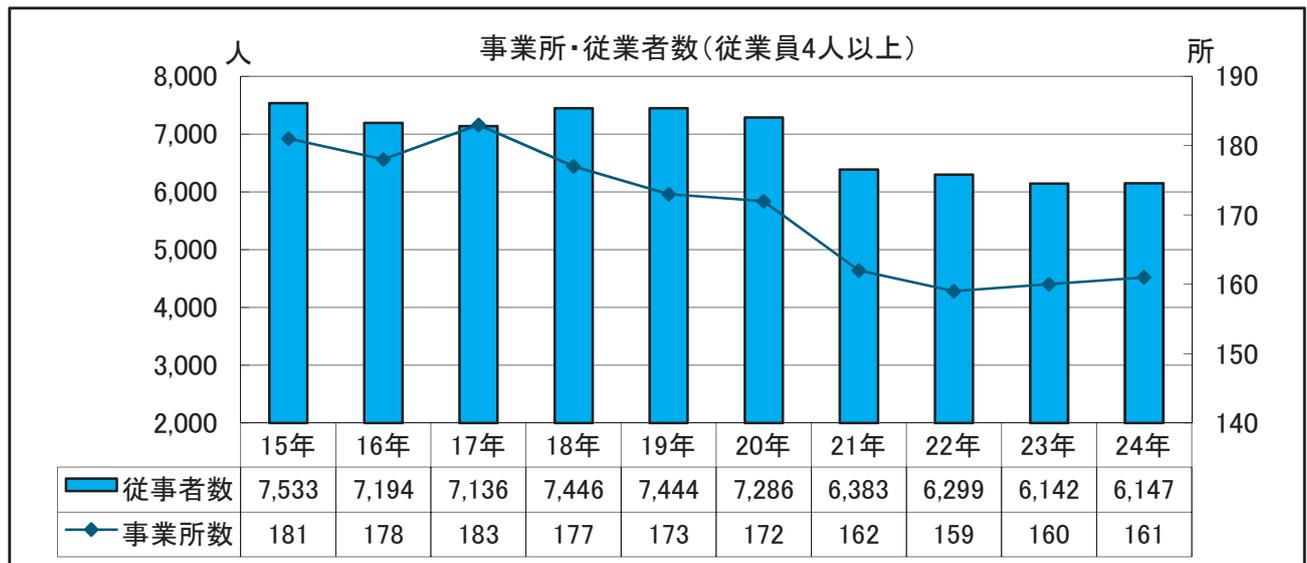
市民体育館は小千谷小学校改築のため、平成20年度に廃止。

信濃川河川公園は右岸改修のため一時使用休止し、平成24年度から供用再開。

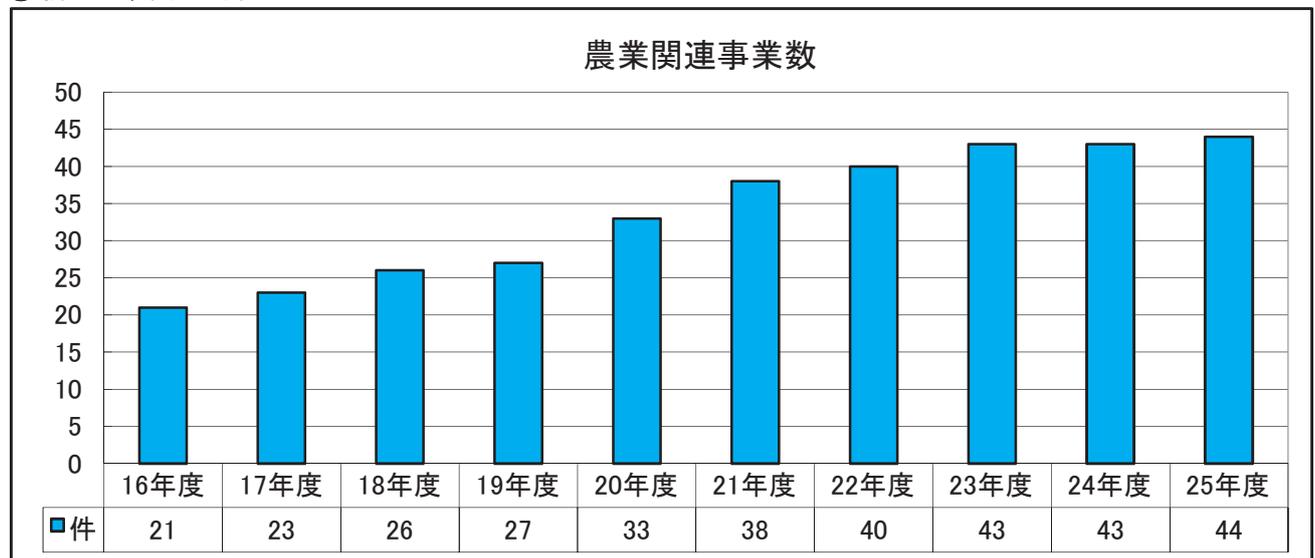
千谷運動公園は仮設住宅設置のため一時使用休止。

## 復興課題2 産業経済の復興

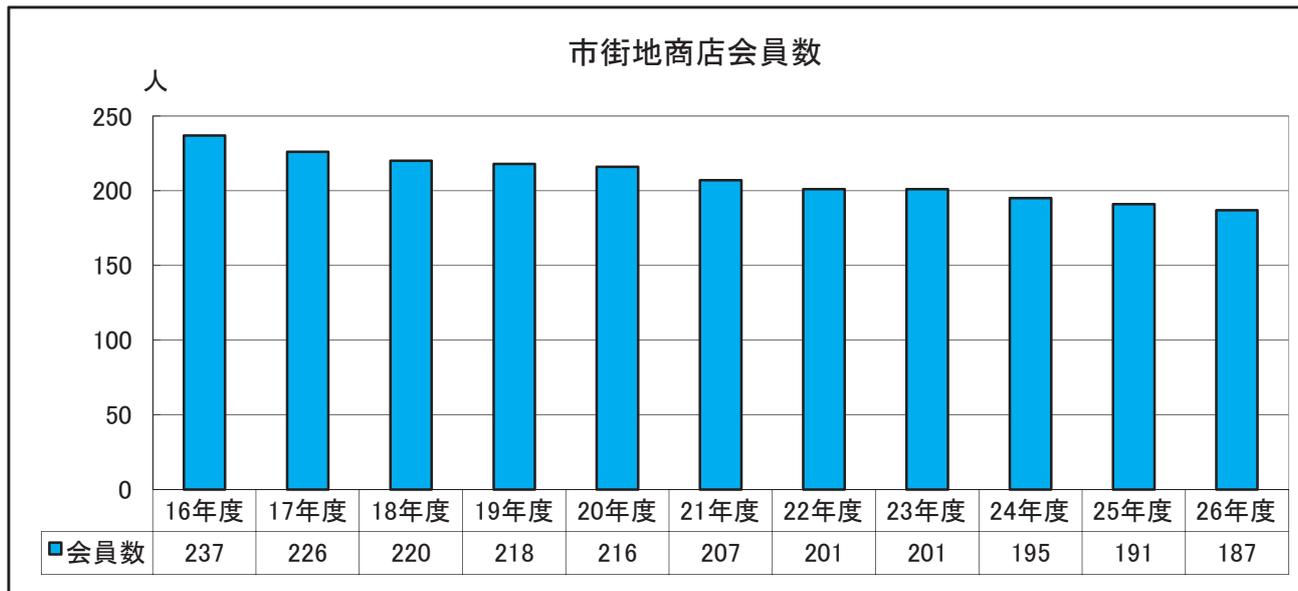
### ①経済の早期復興



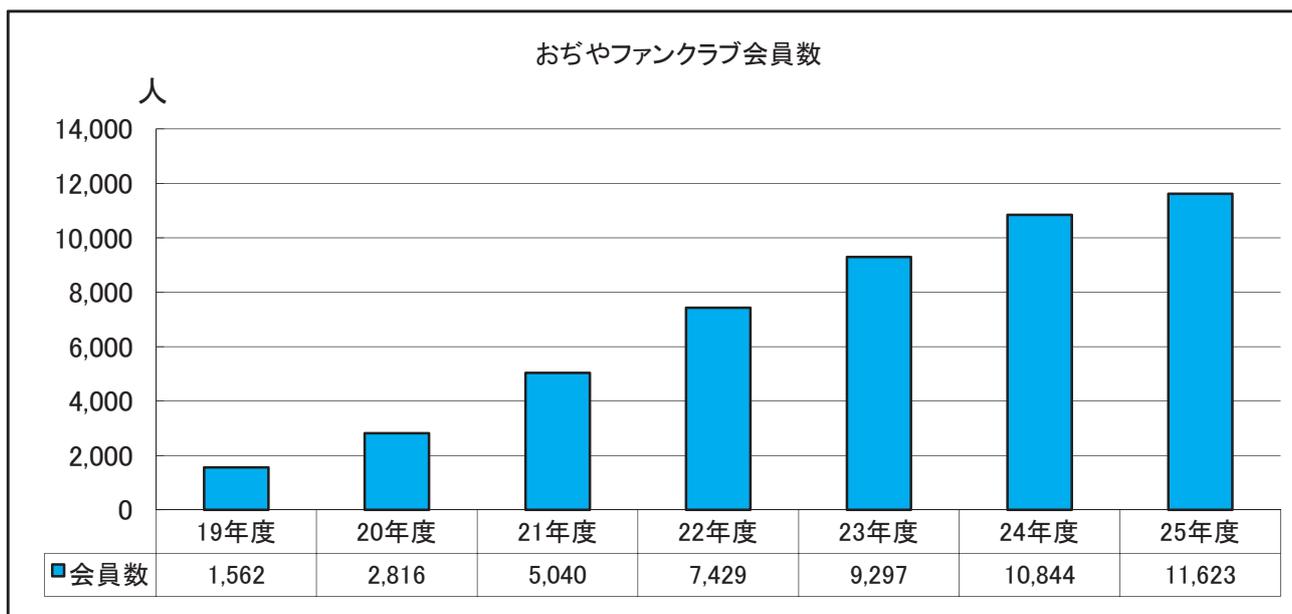
### ③新しい農業の探求



### ⑤商店街の活性化

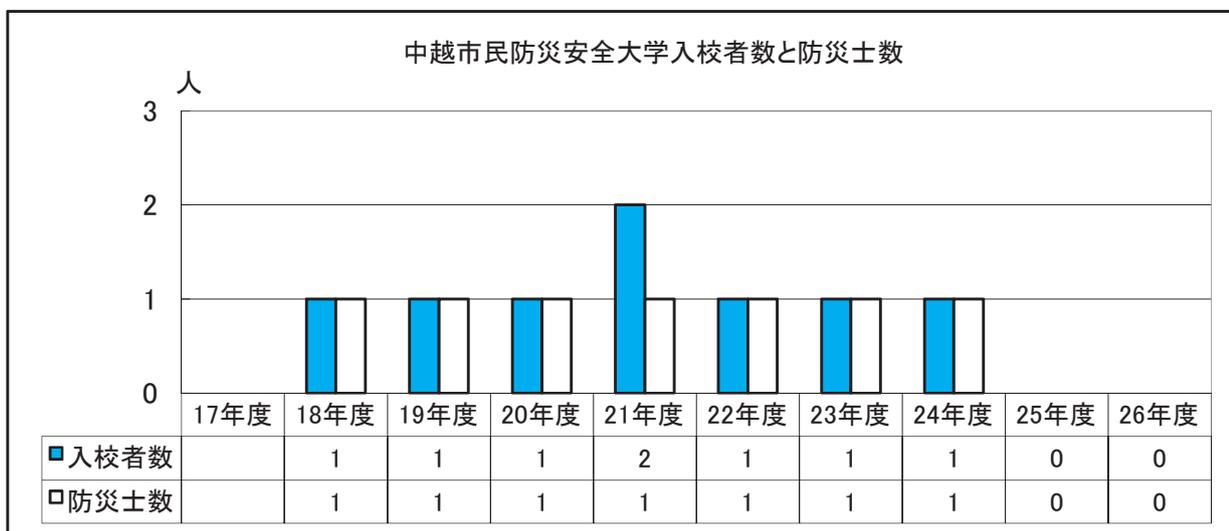
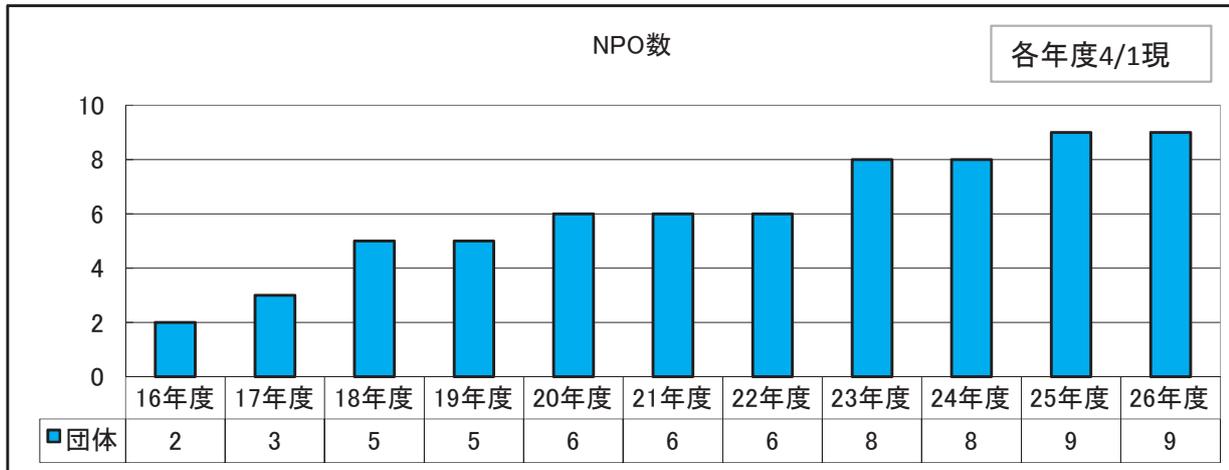


### ⑥知名度を活かした販路拡大と観光振興

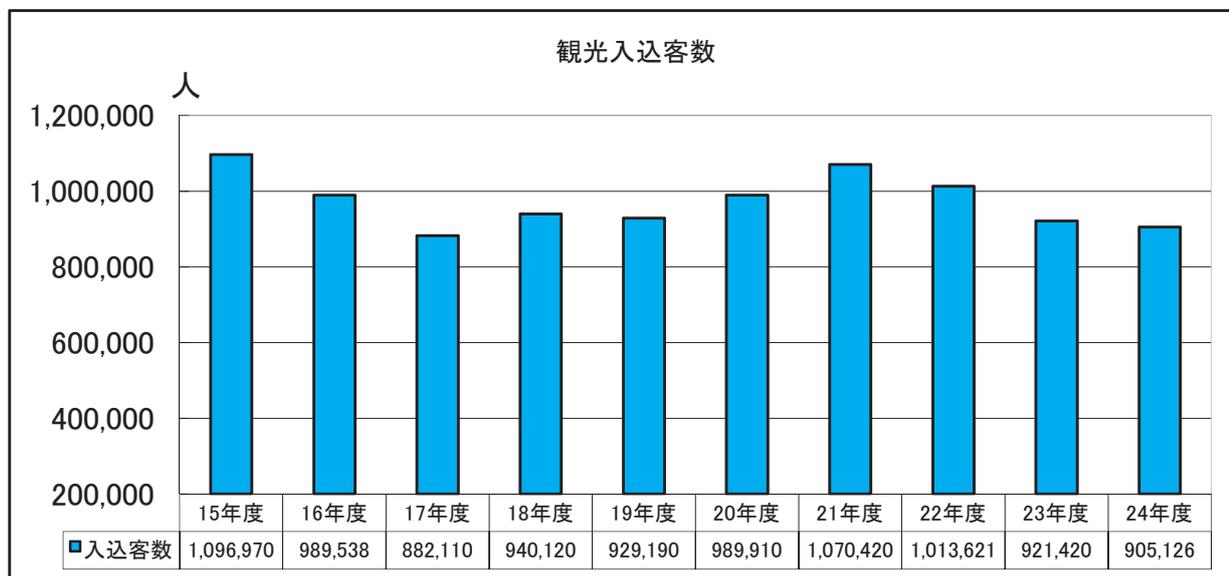


## 復興課題4 コミュニティの強化

### ②リーダーの育成

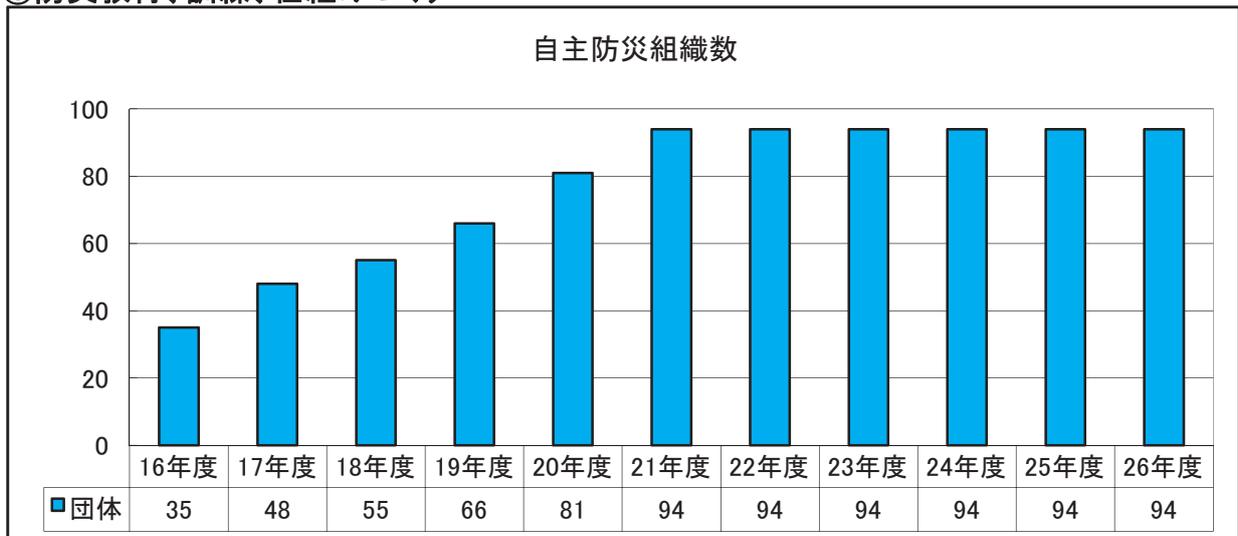


### ③まつりなどを通じたまちの活性化



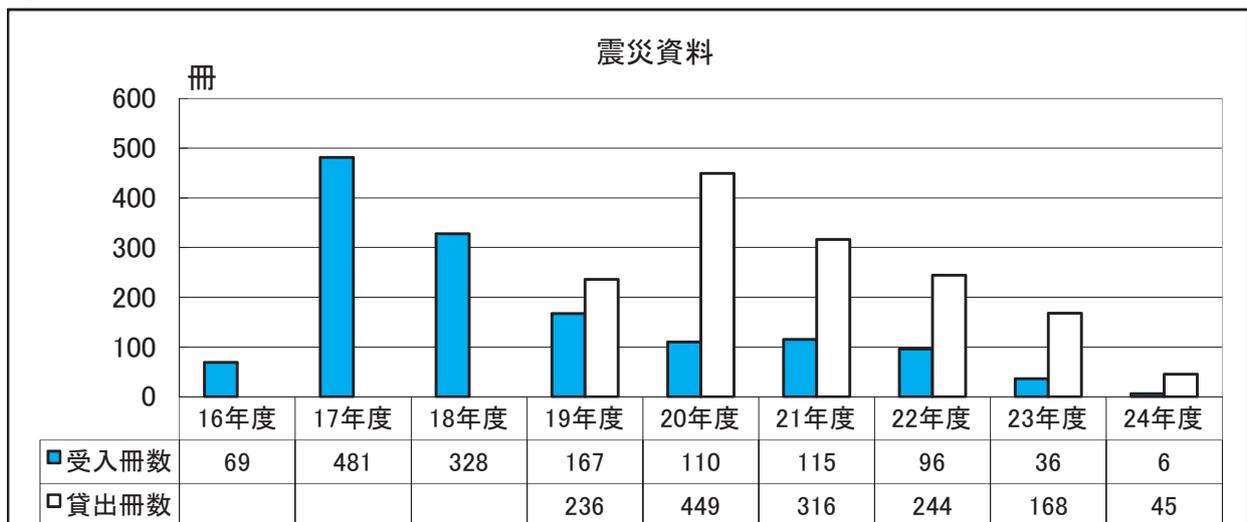
## 復興課題5 災害に強いまちづくり

### ①防災教育、訓練、仕組みづくり

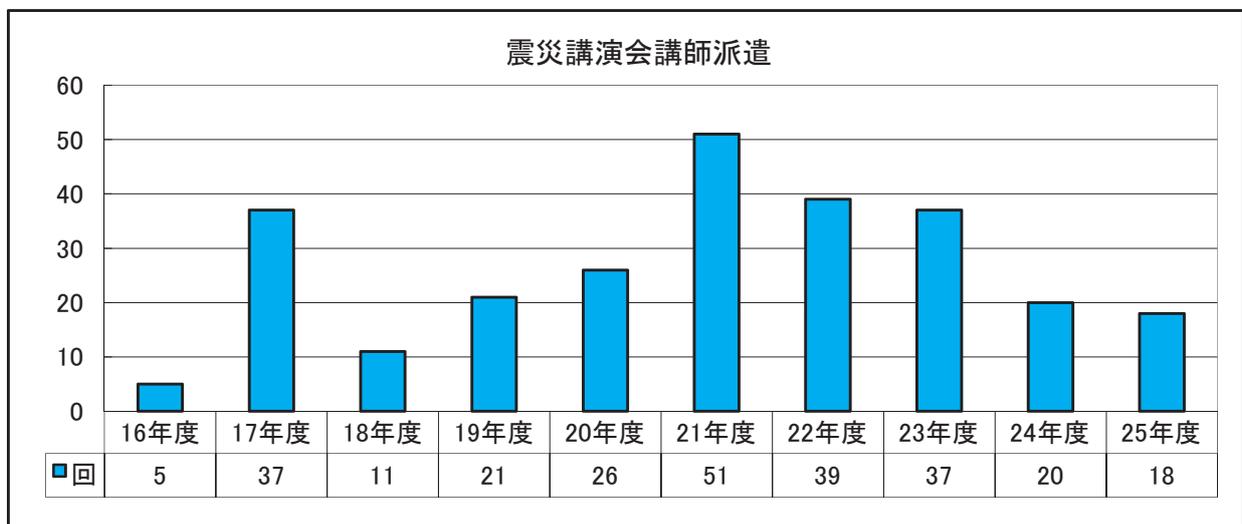


※自主防災会はすでに組織率100%となり、自主防災連絡協議会を設立し継続している。

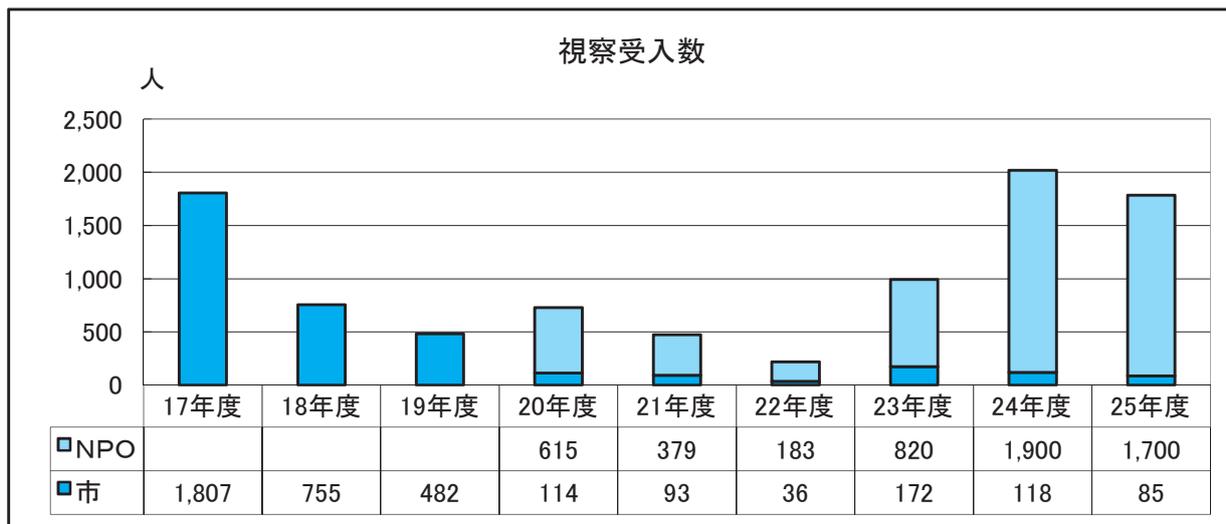
### ②被災の記録、体験の保存、情報の発信



小千谷市立図書館 調べ

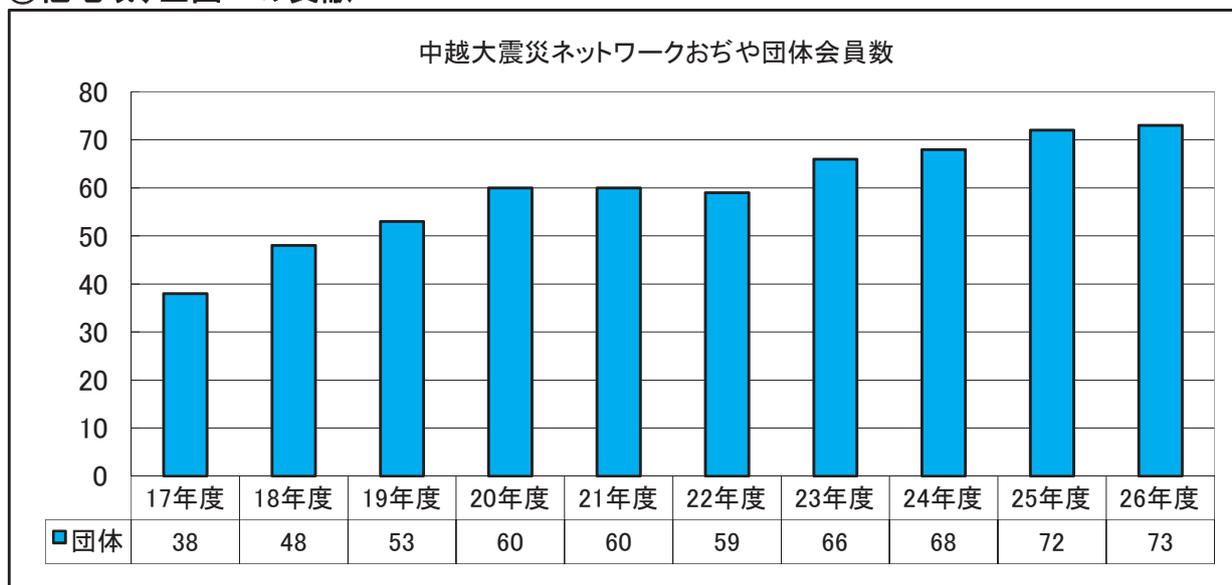


当初は市職員等が派遣されていたが、H20年10月以降はNPO防災サポートおぢやからの派遣数。

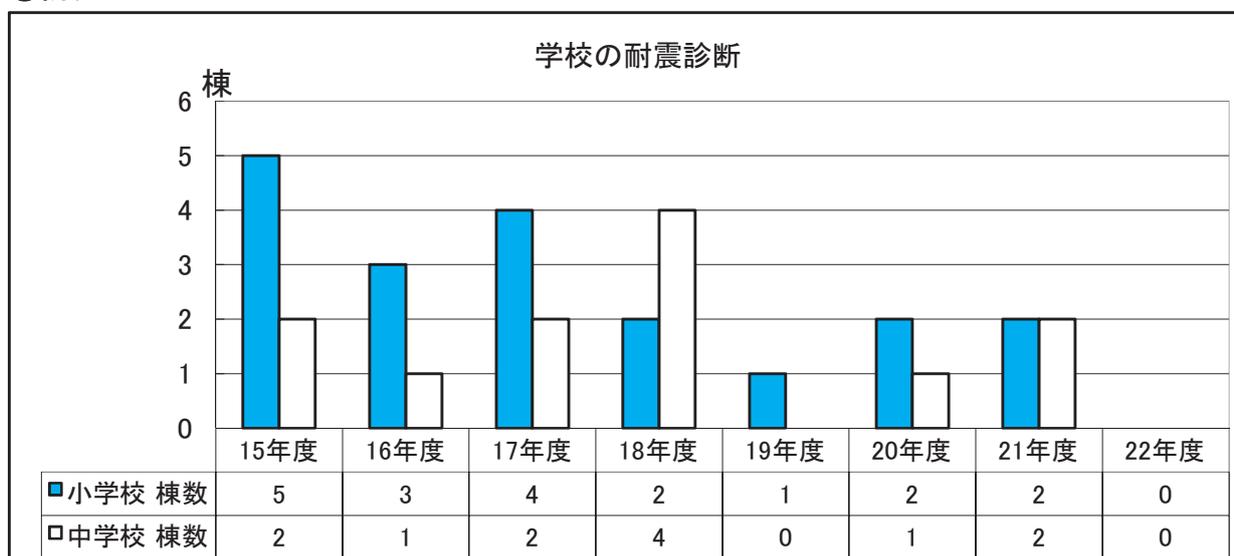


【参考】そなえ館来館者数（23年10月オープン） 23年度6,686人、24年度17,867人、25年度18,770人

#### ④他地域、全国への貢献



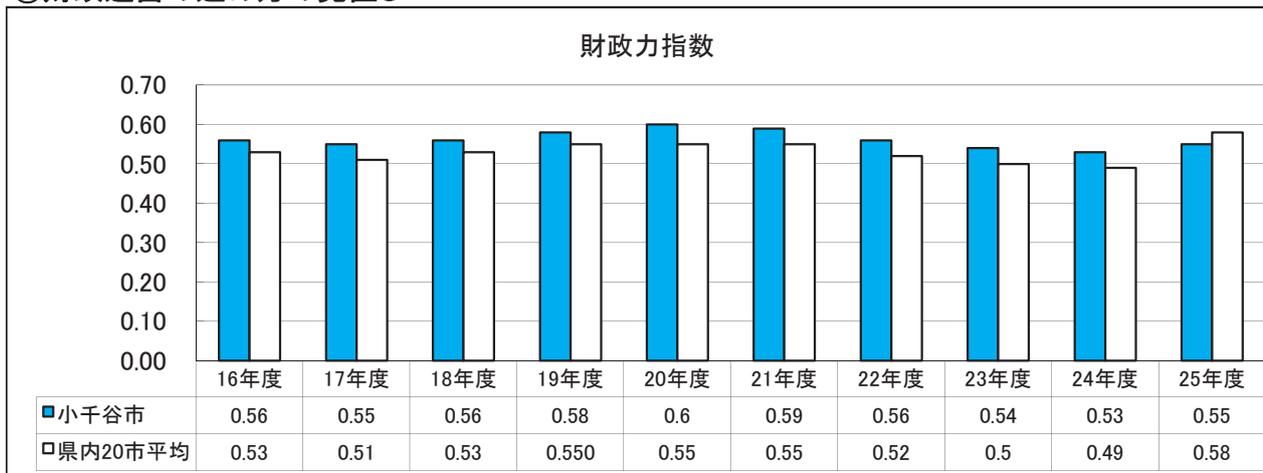
#### ⑤防災力の向上



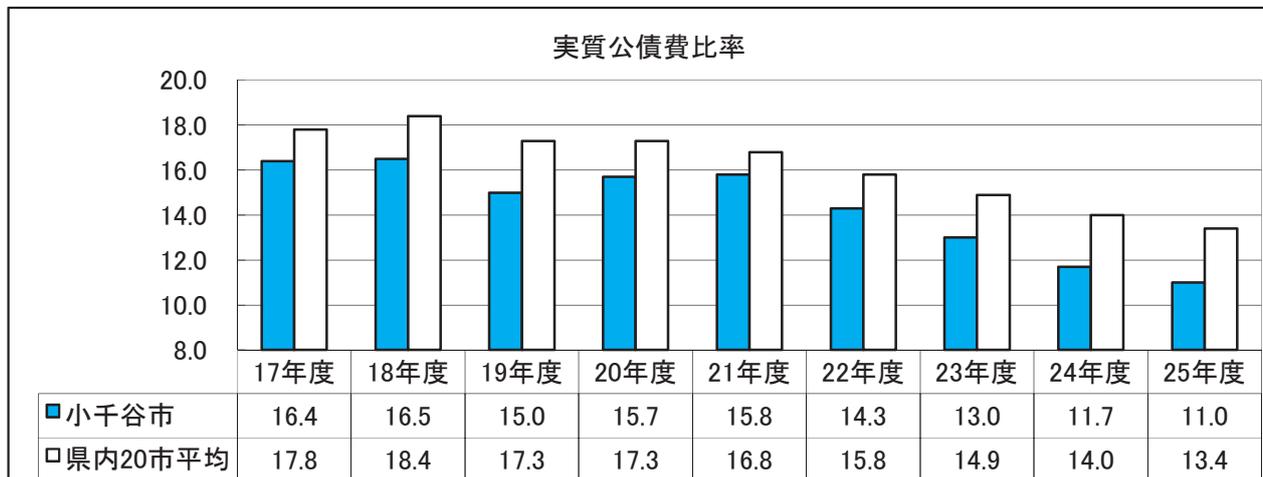
耐震診断をするとしていた校舎等は、21年度をもって全て診断を完了した。

## 復興課題6 復興の進め方

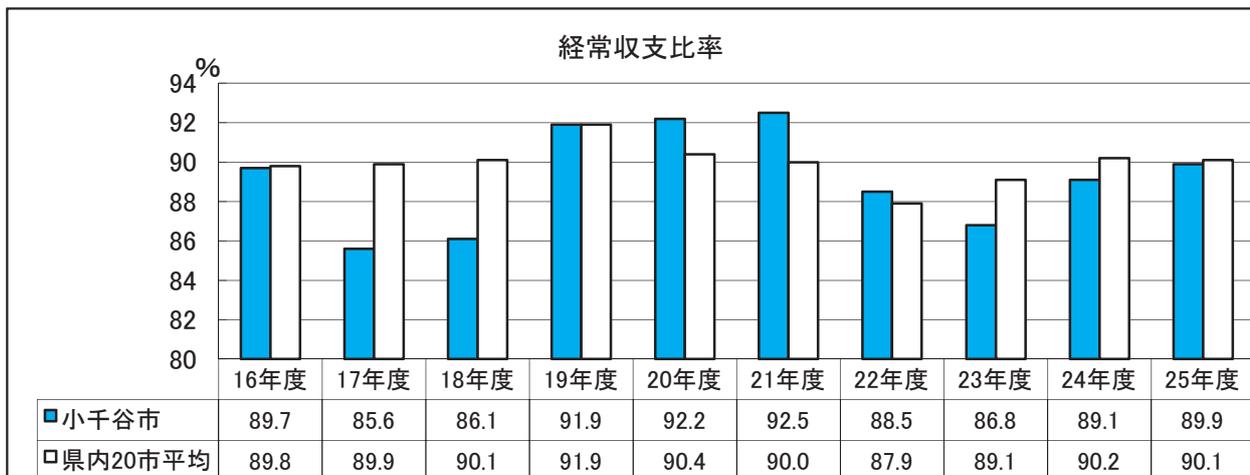
### ③財政運営の進め方の見直し



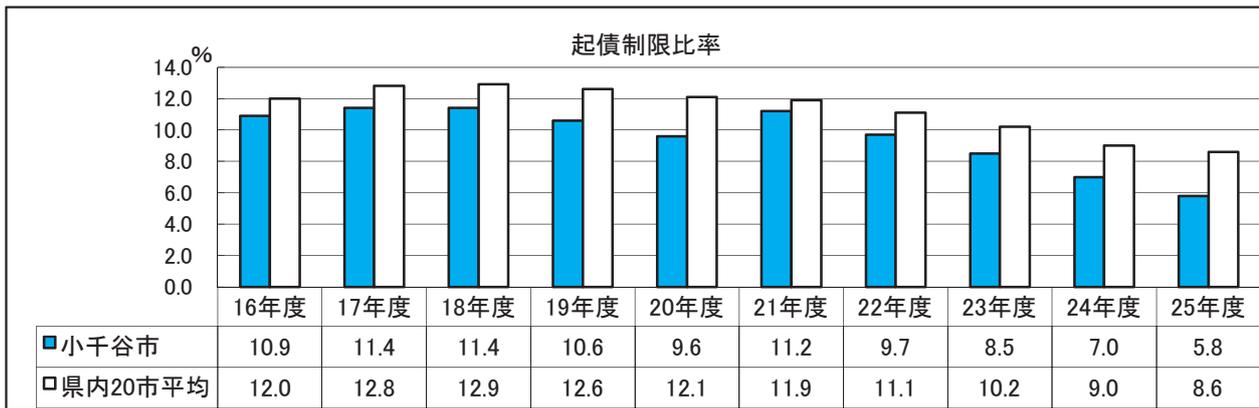
※**財政力指数**とは、地方公共団体の財政基盤の強弱を示す指標で、標準的な財政活動に必要な財源をどれだけ自力で調達できるかを表しています。  
財政力指数が高いほど自ら調達できる財源の割合が高く、財政力が強いことになります。



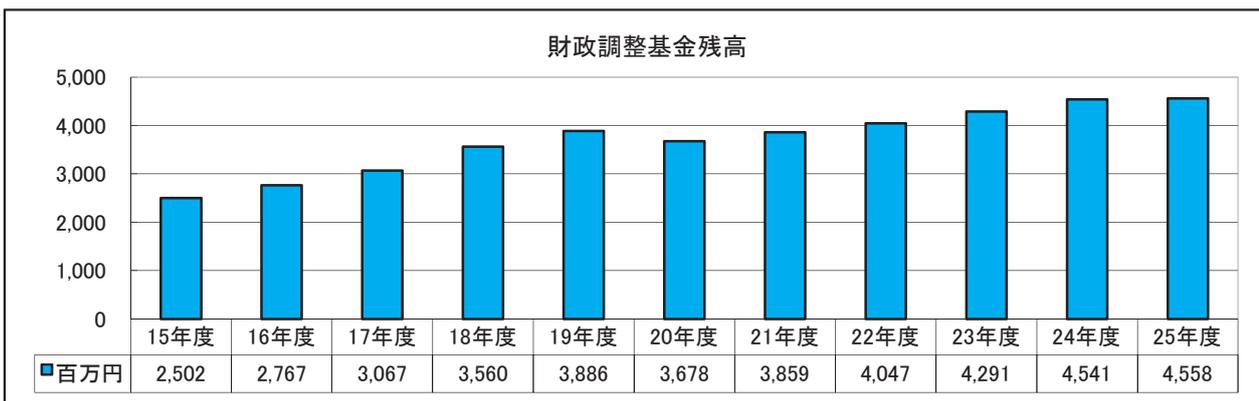
※**実質公債費比率**とは、収入のうちどのくらいの割合を借金返済に充てているかを示す指標で、財政状況の健全性を客観的に判断するためのものです。  
比率が低いほど、借金返済の負担割合が少なく、財政状況が健全なことになります。



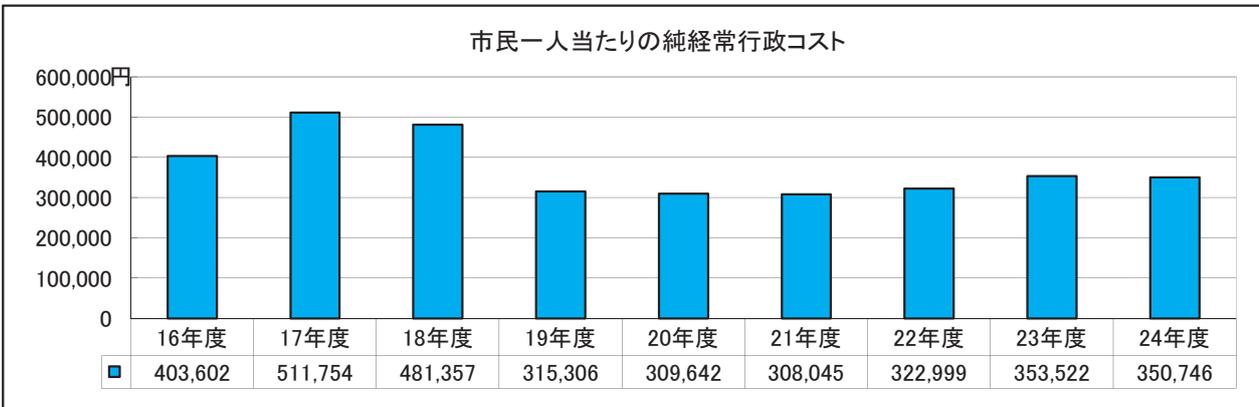
※**経常収支比率**とは、歳出のうち人件費、公債費等の経常的な経費に、市税、普通交付税等の経常的な一般財源収入が充当されている割合を示します。  
財政構造の弾力性（自由度）を表し、低いほど弾力性（自由度）があります。



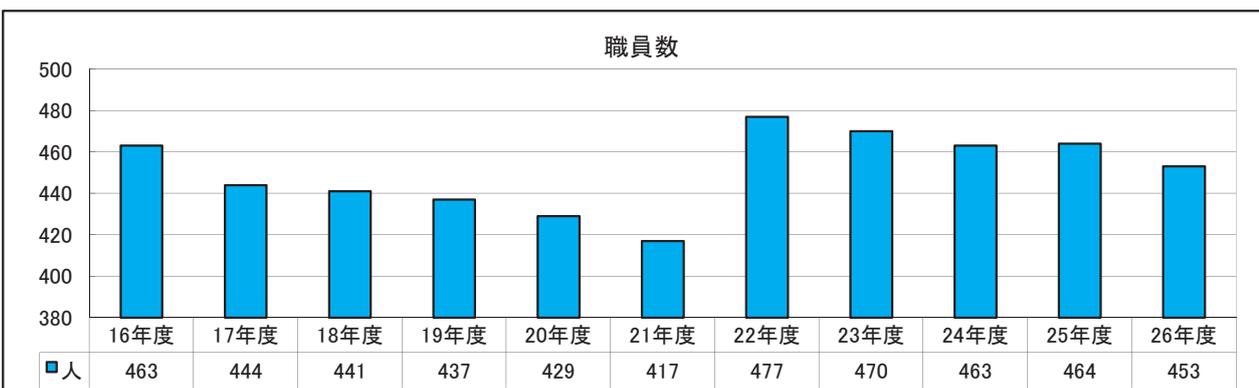
※起債制限比率とは、地方公共団体における借返済の負担の度合いを判断する指標のひとつです。



※財政調整基金とは、年度間の財源の不均衡をならすための積立金です。この基金には、前年度から繰り越したお金の半分以上とこの基金の利子分を積み立てることになっており、災害等やむを得ない場合などに基金を取り崩すことができます。



※純経常行政コストとは、人件費や物件費、補助金などの経常行政コストから使用料や手数料などの経常収益を引いたものです。  
注) H16～H19については、行政コスト計算書のうち〔行政コスト〕と〔使用料、手数料等〕の差としています。



※平成22年3月に小千谷地域広域事務組合が解散となり、消防本部等を編入しています。  
※平成25年度から退職者再任用制度を実施しています。

## 4 市民意向調査概要～市民による復興施策への評価

復興計画終了を迎える26年度に向けて、復興への取り組みがどの程度進んだのかを判断する基礎資料として、広く市民の実感による評価を求めるために「市民意向調査」を実施した。

### 1. 調査の目的

震災以降、復興がどの程度進んだのかを判断する基礎資料として市民の実感を問うもの。

### 2. 調査の内容

短期及び中期検証の際に行った市民アンケートと同様の内容とし、全体の割合等を比較できるものとした。

### 3. 調査対象者

平成25(2013)年10月1日現在、小千谷市の全人口に占める地区別人口の割合に応じて抽出した市内に住所を有する年齢20歳以上の男女各500人、計1,000人

### 4. 調査の方法

調査用紙と返信用封筒を同封して発送する。

平成25(2013)年10月18日(金)に郵送し、同年11月1日(金)までに投函とした。

### 5. 回答数及び回答率

524件/1,000件(回答率:52.4%)

### 6. 調査結果概要

復興方針ごとの評価では、全ての設問において「復興した/おおむね復興した」という回答が増えた。その中でも特に大幅に伸びた項目は「1-1 住宅の復興支援」、「5-2 被災の記録・教訓の発信」、「5-3 情報伝達手段の整備」である。特に情報伝達手段の整備については市内全世帯への緊急告知ラジオの設置、衛星携帯電話の配備、緊急情報メール配信など基盤整備と技術の進歩により多岐にわたる情報伝達手段を網羅して整備されたためと考えられる。

反対に「2-5 商店街の活性化」、「4-4 国際社会への対応」、「4-5 コミュニティビジネス」については前回よりやや改善したものの、まだまだ評価が低いままであった。特に商店街の活性化は、世界的な不況の影響や郊外型大型店の進出などによって、震災前から引き続いている課題である。今後のまちのあり方などと合わせた多角的な対応が必要であり、市民の実感を伴うような具体的な対応を行っていくことが求められている。

※調査結果のグラフ及び詳細は、27ページからの第4章に掲載しています

## 5 市民ワークショップ概要

### 1. ワークショップの目的

復興計画で掲げた目標「震災を乗り越え、よりよいまちにする」ことができたのかを考えるために、参加者59人が7班に分かれての話し合いが行われた。20代から70代と幅広い年代が集まり、過去の検証と比較して若い世代が多く参加したのが今回の特徴であった。

日 時：平成26(2014)年2月11日(火・建国記念の日)午後1時～4時40分

会 場：小千谷市総合産業会館サンプラザ大ホール

参加者：59人(一般参加者52人、ファシリテーター7人)

### 2. ワークショップの実施

午後 1時～1時5分

開会の挨拶

常葉大学 田中聡先生(復興推進委員長)

1時5分～1時15分 これまでの経過と市民ワークショップの進め方

京都大学 牧紀男先生

1時15分～1時30分 小千谷はどれだけ復興したのか

・市民は復興の状況をどう捉えているのか

新潟大学 田村圭子先生

1時30分～4時30分 ワークショップ「小千谷は震災をどのように乗り越えたのか、より良いまちになったのか」

全体進行: 牧先生

1時30分～1時35分 導入(統計データの説明)

1時35分～3時10分 小千谷は震災をどのように乗り越えたのか?

3時10分～3時25分 (休憩)

3時25分～4時00分 10年を契機に小千谷の未来を考える

4時～4時30分 発表

4時30分～4時40分 まとめ

大塚昇一副市長

#### ■導入1「これまでの経過と市民ワークショップの進め方」 京都大学 牧紀男先生

- ・ 小千谷市復興計画の目標である「震災を乗り越え、よりよいまちに」なったのか、を検証する。
- ・ 市役所に任せず市民を集めてワークショップを開催する理由は、この復興計画自体が市民みんなで作った、みんなで実行するための計画だから。
- ・ 過去に2回の検証ワークショップを行っている。
- ・ 2008年(H20)の時は、復興計画で何が終わって、何がまだできていないのかを整理していただいた。例えば、仮設住宅は3年で解消できたが、商店街の活性化などはできていない等の意見が出た。
- ・ 2011年(H23)の時にも再度整理を行った。復興計画に書いてあることはほぼ完了したが、災害前からの課題が残り、さらに地域によるバラつきがあるという結論であった。
- ・ 今回の検証を行うにあたり、小千谷の現状を示すデータをお配りしてある。例えば小千谷の人口はこの10年で約3,000人減っているが、良くなっているデータもたくさんある。
- ・ こういったものを参考にしながら、本日はみんなで震災を乗り越えてよいまちになったのかを考えていきたい。



#### 復興計画(短期)評価結果 残された課題(重点計画)

- ・ 1. 市民生活の復興
  - こどもたちが生き生きと遊べるまち
  - 子育て環境支援
  - 若者の定着支援
- ・ 2. 産業・経済の復興
  - 経済の早期復興
  - 新しい農業のあり方
  - 商店街の活性化
- ・ 3. 安全・安心な社会基盤
- ・ 4. コミュニティの強化
  - リーダーとなる人材の育成
- ・ 5. 災害に強いまちづくり
  - 防災教育、訓練、仕組みづくり
- ・ 6. 復興の進め方
  - 行政運営の進め方の見直し

#### 2011年(7年後)

復興計画に書かれた復興はほぼ完了した。  
災害前からの課題は残り、地域によるバラつきはある

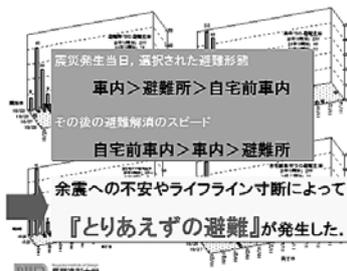
■導入 2「市民は復興の状況をどう捉えているのか」 新潟大学 田村圭子先生

- 2013(平成25)年10月に市民意向調査を行っている。市民がどのようにとらえているのかを紹介させていただくので、今日の参考にさせていただきたい。
- 復興目標1の中には非常に評価が高く、特に「子育て環境の整備」について評価が高くなっている。「若者の定着支援」については評価が厳しいが、これは震災だけの影響ではないと思われる。
- 目標2では「商店街の活性化」が特に評価の厳しい項目であるが、これも震災前からの引き続きの課題である。
- 目標3については主にインフラの復旧であり、評価が高くなっている。前回より特に評価が高くなった「情報通信基盤の整備」については、防災ラジオの全戸配布やフレッツ光の導入など情報通信手段が改善された結果ではないか。
- 目標4では評価が高くなったもの、あまり変わらないものに分かれている。
- 目標5では、全て評価が高くなっている。「教訓を活かし全国に貢献」については震災ミュージアムによる伝承や震災の教訓を伝える活動をしている人がいる。また、東日本大震災避難者の民泊受け入れや被災地との交流など様々な取り組みが生まれていることが評価されているのでは。
- 目標6については厳しい目標であるが、市民からの評価は高い。引き続き取り組んでいかなければならない課題が多い。
- 全体的に見ると非常にポジティブな意見が多く、うまくいっているのではないかとという評価である。その中でも震災前からの引き続きの課題が残っており、厳しい評価が付けられている。

■セッション1「震災をどのように乗り越えたのか～年表作り」

【講演①】震災の被害と避難所での生活を思い出す 長岡造形大学 澤田雅浩先生

- 震災発生が10月にあり、避難所が解消されたのは年末。
- 本震も大きかったが、余震がとて多くて眠れない人もいた。
- 特に山地の被害が大きかった。また、家はもちろん道路や地盤そのものの被害が大きかった。
- ちょうど県知事が変わるタイミングだったし、土曜日だったので市役所は休みだった。
- (写真を見ながら振り返る)あちこち道に大きな段差ができたり、市役所には支援物資が山積みになっていた。
- 信濃川右岸の被害が大きく、妙見や東山では大規模な地滑りが起きていた。
- 避難所に行ってもガラスが割れていて立ち入り禁止だったり、すでに一杯で入れなかったりして車で寝泊まりする人もいた。
- 寒さも厳しかったが、避難所以外でも皆さん工夫しながら避難生活をしていた。
- 電気は2日目くらいから復旧が始まった。水道、ガスは時間がかかったので風呂やトイレ、調理など長期で不便だった。
- 避難先では車内が一番多かった。家が無事な人でも余震が怖くて車の中にいた人が多くいた。
- 物資については3日目くらいから手に入り始めた。
- 当時は情報を伝えてくれるメディアがあるようではなかった。情報があまりない中での避難生活であった。



避難の状況

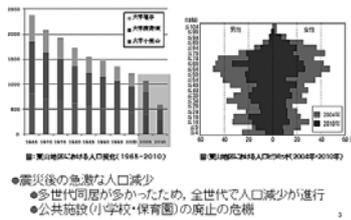
- 建物被害や火災の発生が少ない場合、自宅周辺での一時避難が行われた
- 安否確認や情報伝達が困難だった?
- 夜間の警戒作業も大変だった?
- 余震の発生により、建物内でなく「車内」での避難が選択される
- トイレの問題 → 郊外大型店舗の避難所としての機能
- 大都市と地方都市の避難形態の根本的な相違

【講演②】住まいの再建—仮設住宅がなくなるまで 常葉大学 重川希志依先生

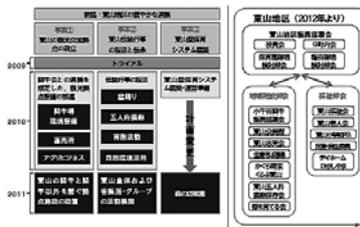
- 当時仮設住宅に入ったのは約800世帯。3年で仮設住宅が解消されたが、降雪期を考えれば実質的に1年半程度のとても速いスピードで進んだ。
- 最初は応急危険度判定を行い、全ての家に3色の紙を貼っていった。次に罹災証明を発行するための家屋調査を約半月で全ての家屋について行った。その結果、11月21日に罹災証明の発行が始まった。
- 震災ごみや家の解体撤去が課題に。市民の家前が仮置き場となり、ごみが山積み。全国の自治体が処分に協力してくれた。また、集めたごみは徹底的に分別・リサイクルされた。
- 全壊・大規模半壊が約1000戸。訪問調査等により870戸の仮設住宅が決定され、10月28日に着工してから1ヶ月半というすごいスピードで、降雪前に全世帯の入居が完了した。
- 仮設住宅は豪雪を想定されていなかったため、様々な問題が発生。一つずつ解決しながら生活。
- 3年後に全ての仮設住宅がなくなった。これは他の災害と比べても非常に速いペースだった。766世帯のうち、かなりの割合(78%)の方が何とか直したり建て替えたりした。
- 住宅応急修理制度は仮設住宅に入らないことを条件に修理費を助成する制度だったが、応急修理だけではなく恒久的な修理の一部として活用できた。
- 十二平や塩谷など地盤被害の大きい地域は、これからの生活の事も考えて、約80世帯が安全な平地への集団移転を行った。また、災害公営住宅も作られ、そこに入居される方がいた。
- このように、それぞれ仮設住宅解消に向けた取組がされていった。

- ・ 東山地区で復興支援員として働いていた経験がある。住み続けるための人のつながりについて、東山を題材に説明。
- ・ 復興基金が生活再編の大きな力となった。
- ・ 震災があって、出ていく人も多かったが、コミュニティの再建にはどうやって住み続けるかが課題だった。
- ・ 世帯も人口も震災後に半減しており、人口については全世代で減少している。
- ・ 災害危険区域の指定を受けたため新規に家が建てられず、新たな住民を迎え入れることができないため、人口回復が困難。
- ・ 人口減により町内会組織が機能しない。地域振興支援職員の廃止も含め、自治を行う機能が低下した。
- ・ そのため、震災後は東山9集落が連携して活動することとし、まつりや直売所の設置など様々な取り組みを行ってきた。
- ・ 様々な事例紹介(復興ワークショップ、伝統まつりの復活、被災者交流、被災者支援、学校活動など)
- ・ 特に大きな変化は民泊の受け入れ。中学生を地域や家庭で迎え入れることで交流が生まれており、幅広い世代が関わることで世代間交流も行われている。
- ・ このような取組の中で地域コミュニティの再構成が進んでいるのが、3年から今までの状況である。

課題1 | 人口減少



実践 | 新しい体制の構築(2012)



■ みんなの年表第1期

震災～避難所がなくなるまで(3ヶ月) 全班まとめ

平成16年				
	10月	11月	12月	
頑張ったこと、辛かったこと	<b>身体・健康</b> 体調変化、不眠等 家族の安否 <b>住居</b> 自宅の被害 <b>避難生活</b> 余震が怖くて車中泊が続いた 避難所に入れない ビニールハウスやテントで寝泊まり 体調変化、不眠等 <b>コミュニティ</b> 近所の避難手伝い 避難所でボランティア 消防団活動 防犯見回り 神社の再建	<b>ライフライン</b> 電気、ガス、水道 トイレ、風呂 無料で風呂に入れてくれた 道路、ガソリン 携帯が繋がらない 様々な「我慢」 通信・移動困難 情報が不足 町内会長としての避難所運営 孤立集落の避難	<b>外部からの支援</b> 支援物資、炊き出し 大勢のボランティア 自衛隊等の支援 支援を通じた交流 <b>片付け</b> 自宅片付け、補修 高齢者宅の片付け ボランティアの支援 <b>不安</b> 余震 無力感、喪失感 孤独感 楽しさがなくなった 何を優先すべきか <b>仕事への影響</b> 事業所の立て直し	<b>避難所での活動</b> 助け合い トイレ清掃等当番 ボランティアの指揮 やることがない 子供を守る 情報の積極的な確保 生活弱者への対応 今後について皆さんと話し合い 避難所でのトラブル 飲み会が無くなった 子供の遊び場 明るい雰囲気作り <b>メンタルの低下</b> 辛さを分かってもらえない 家族・知人の死 子供の遊ぶ声で心が落ち着いた 震災復旧業務 休暇がない 単身高齢者の住宅補修を喜んでいただいた
			自分のスキルが役立った 実家に手伝いに帰った 支援活動を理解してもらえなかった	
				【凡例】 がんばったこと つらかったこと 両方あったこと

■みんなの年表第2期

仮設住宅がなくなるまで（3年） 全班まとめ

	平成17年		平成18年		平成19年	
	1月～6月	7月～12月	1月～6月	7月～12月	1月～6月	7月～12月
頑張ったこと、辛かったこと	<b>豪雪</b> 除雪、雪下ろし 除雪業務 道路の補修が間に合わない 消雪パイプ等不良 通勤・生活への支障 雪国のつらさを分かってもらえない	<b>復旧</b> 農地の復旧 職場の復旧 新築・転居 生活の復旧安定  <b>復興イベント</b> 復興イベントの開催 乗り越えようとする活力・元気の創出	<b>文化の復活</b> 闘牛の再開 地域行事の再開  支援への感謝 祭りを盛り上げた 震災イメージの払拭	<b>集落転出</b> 集落からの転出者増加 人口減少 集団移転 土地の区割り  <b>高齢化の進行</b> 山間地だけでなく市街地も高齢化 若者の小千谷離れ	<b>中心市街地の衰退</b> 商店街の衰退 全国的な問題	<b>中越沖地震への支援</b> ホランティアで支援 恩返し 被災経験の活用 仕事で家に帰れない 地震再発の不安 原発リスクの不安
	<b>新しい活動</b> 会社設立 NPO法人の設立 就職・転職	コミュニティの再編と活性化 町内コミュニティの法制化	地域活性化のため住民団体の設立 市内地域間の交流 町内ボランティアの会	体験を他地域の人に伝える 小千谷に転入 婚活	大学生との交流事業 中学生民泊の受け入れ開始	ファンクラブ設立 コミュニティビジネス
	<b>心のケア</b> うつ・PTSD・恐怖 子供や高齢者のメンタルケアニーズ 続く余震	<b>被災地格差</b> 精神的な温度差 小千谷の情報が取り上げられない	<b>経済的不安</b> 住宅の修繕費等による負担増 二重ローン	<b>風化</b> 記憶が薄れていく 小千谷の被害の風化 中越大震災そのものの風化		【凡例】 がんばったこと つらかったこと 両方あったこと

■みんなの年表第3期

住宅再建完了から現在まで（10年） 全班まとめ

	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年
	頑張ったこと、辛かったこと	<b>家族との絆</b> 子育て	高齢家族のケア	子供の成長	家族の大切さを実感	子供の精神的影響が心配	ペットを心の慰めに
		<b>地域の復興計画の策定</b> 中山間地域のこれからを考える	<b>教訓の伝承</b> 体験・教訓を語り継ぐ	震災記録誌の作成	防災メモリアル施設のオープン	住宅解体マニュアル作り	防災学習のプログラム作り
		<b>地域の活性化のために</b> 住民団体の立ち上げ、活性化 NPO法人の増加	地域の拠り所オープン 地域を越えたイベント実施	FMラジオによる地域情報の発信 各地域での活性化事業	若者の居場所作り 子供が楽しく遊べる場を作る	<b>記憶の風化</b> 中越大震災が忘れられている 震災の体験を忘れず頑張っている	
<b>新しい活動</b> 研修生や中学生の民泊受け入れ		農家民宿など新しい事業開始	少しずつ新しいお店がオープン	東地区にスーパーがオープン	地元食材を活用した商品の開発	農家レストランオープン	若者の繋がりを活かした仕事作り
【凡例】 がんばったこと つらかったこと 両方あったこと	<b>飲みにケーション</b> 関係者や同級生等とのコミュニケーション再開  <b>拠り処の喪失</b> 地域内の商店が廃業	<b>地域の復興計画の策定</b> 中山間地域のこれからを考える	<b>東日本大震災被災地支援</b> 被災者の民泊受け入れ 恩返し	被災地での支援 避難所の運営 支援後も続く交流	生きている事が幸せ フラッシュバック	募金やイベント開催など様々な形で続く支援 放射能の脅威	
			中心商店街の衰退が進行			地域内の小学校が開校	

## ■セッション2「10年を契機に小千谷の未来を考える～未来を表すキャッチコピー作り」

＜未来の小千谷を表すキャッチコピーを作り、将来像を描こう＞

A班		B班		C班		D班	
小千谷愛 ～絆への感謝を忘れずに～		しぶとい、未来の扉は自分で開く、 また訪れたい。アイデアあふれる、 ゆりかごから墓場まで、災害への備えを学び実証する、みどりの 長寿シティ=小千谷		生涯楽しく住める“まち” 小千谷を、世界に発信!!		多世代で目指す、 「待ってる」から「攻める」へ	
小千谷の良さをPR シファンを増やす	小千谷自慢が できる郷土愛	交流人口の増加 ふるさとと感じてもらえるように	地域活動やボラン ティア、NPO活動 の継続	地域に根差した ビジネスを	交流を活発に	魅力を高めて交 流人口を増加	中山間地域の 活性化
被災地への支援 を継続、助け合う	健康な体づくり	若者の新しい試 みを支援 頑張る人を応援	地域コミュニティ 充実による過疎 対策支援	高齢者が暮らし やすい安心を	地域に参加する、 交流する若者を 増やす	全国から来るま ちを目指し、全 市での祭り、イ ベント実施	錦鯉を市内に泳 がせてPR
地域の絆と元気 を取り戻すよう なまちづくり	家族の絆を深める	防災体験や環 境教育など、地 域の資源を伝承		市民の力を活かし、 活力あるま ちに	子供から高齢者 まで誰でも暮らし やすいまちに	雪の利活用	若者が夢を語り まちづくりに参 加するまちに
住宅の耐震化 などの防災対策	高齢者の生きがい			通信網の整備と ITリテラシー	市民が小千谷の 事を知り、宣伝で きるように	「ならでは」の魅 力を作り、発信	防災スペシャリス トの育成等による 災害経験の伝承
E班		F班		G班			
人とのつながりを大切に みんなが大好きなおぢやへ ～若者の定着を目指す～		小千谷のよいものを自慢していこう ～ex.ちぢみをオリンピックへ～		夢咲くおぢや ～いつでも、今日が、いちばん、楽しい日!!～			
震災体験を子供 たちや他地域の 人に伝える	小千谷の若者 が帰ってきて定 着する拠点作り	地場産業や特 産品を発展させ、 販売する	次世代へ震災 の記憶を継承	県内外の人との 交流	魅力や震災の 教訓など、様々 な情報発信		
企業誘致による 雇用の安定化	特産品を拡販し て海外へ	人とたくさん出 会えるまちに	人と人の繋がり やコミュニティを 大切に、交流 を増やしていく	次世代リーダー の育成や教育	小千谷で家族を 作り、生きていく		
小千谷の魅力を知り、 伝えること	若者の活力で困 難を乗り越える	医療と福祉のま ちを目指す	住んでいること が自慢できるよ うに	雇用を作り、小 千谷で仕事が 楽しくできる環 境づくり	子育て世代に優 しい福祉の充実		
地域の繋がりを 大切にする		東日本大震災 被災地の目標と なるまちに		転入者や定住 者による人口増	地域の課題を共 に解決する住民 団体の充実		

### 3. ワークショップの結果概要

#### ■セッション1

震災の直接的な影響は、ライフラインや避難生活での苦労など最初の3ヶ月に集中していた。時間の経過や復旧の進み方とともにつらかった思い出が少なくなり、前向きな思い出や新たな活動が増えていくが、つらかったこととがんばったことは表裏一体であることが多かった。

#### ■セッション2

キーワードベスト5は「若者」、「魅力をPR」、「人・地域の絆」、「教訓の伝承」、「交流」。おぢやらしさを確立し、積極的にPRすることが一番のカギになるのではないかと。

「災害」や「復興」というようなワードは出てこなかった。前向きな言葉が多かった。

#### ■全体を通してのまとめ

幅広い世代が意見を交わしながら和気あいあいと取り組む姿が素晴らしかった。

参加者の感覚として、震災からの復興については全体的に完了したと捉えているようであった。いかにこの想いを繋ぎ、具体的な形にできるかがこれから重要である。

#### ■講師から一言

- ・今まで10年間話し合いを積み重ねてきた成果が表れている。3枚の年表は秀逸な特徴が出ている。1枚目は被災した直後で自分のこととして捉えている。2枚目では復旧が進むにつれて少し他人事として捉え始めていたのが、3枚目の東日本大震災によって振り返り、他人事ではなくみんなの問題だと改めて認識したことが表れている。
- ・キャッチフレーズには皆さんの決意が表れていると思うので、これから次の10年間の目標

としてそれぞれ頑張っていきましょう。

- 震災から生まれた「ネットワークおぢや」の取り組みが防災まちづくり大賞の総務大臣賞を受賞する、という素晴らしい成果が生まれた。被災自治体としての経験を次の災害に備えるために始めた行動が、全国の自治体から賛同を受けている。
- 県内にも色々な災害による被災自治体がたくさんあるが、市民の意見を聞いて復興計画を作り、こつこつ真面目に3年ごとに検証を進めてきたのは小千谷市だけである。10年経って、その成果が表れているのではないかと。県民の一人としても誇らしく思う。
- 若い方から地域を支えてきた年代の方まで、様々な人が同じテーブルで議論ができる小千谷になっていることは本当に素晴らしいし、とてもうらやましい。「震災を乗り越えて、よりよい小千谷を目指す」ことが復興だとすれば、こんな素晴らしいメンバーで議論できたということで達成されたのでは、と感じている。
- 昨年10月の市民意向調査の中で「復興感」について聞いている。生活に関する震災の影響については、2/3以上の方が「おおむね影響がなくなった」と回答している。市の全体的な復興状況については、8割以上の方が「おおむね復興した」と回答している。今日の話し合いを見ても、震災復興という段階から次の新しい段階に進んでいることが分かってきたのではないかと。多くの方から賛同いただけるように感じたので、今後の検証の取りまとめもそのような方向で進めていきたい。

#### ■参加者の感想

- 復興について、改めて考えさせられた。
- 幅広い世代の、業種の異なる人が集まり楽しく意見を交わすことができた。
- 皆さん意見が前向きで素晴らしかった。
- 10年が経ち、当時を思い出すのは大変だった。
- 震災を直接経験していないが、小千谷の将来を考えることは有意義だった。
- 小千谷市民は皆、小千谷を心から愛していると感じた。復興のモデルになれるのでは。
- 思い出話と夢を語るだけでは意味がない。気持ちの高揚感だけでなく、具体的な策を実行させないと自己満足で終わってしまうのでは。
- どうせやるなら、時間も内容も深みのあるものを行った方がよいのでは。
- 分科会のようにしてもっと突っ込んだ話ができればまた参加したい。
- 小千谷の未来のために、市民と行政が一体になる方法を考えなくてはならない。
- 若者の定住する小千谷を、力を合わせて作っていきたい。
- 次の災害に備える人づくりの時期に来ていると思う。
- どの年代の人でもそれぞれ楽しめる街になっていくようなまちづくりをしなければ。
- まちづくりには大きな改革が必要。これから積極的に関わっていきたい。
- 今日グループで考えたことを実践できるよう、自分も市民の一員として取り組みたい。

#### 4. ワークショップの開催にあたって

会の運営・進行にあたっては、京都大学教授 牧紀男氏を中心に、復興推進委員長の常葉大学教授 田中聡氏、新潟大学教授 田村圭子氏、常葉大学教授 重川希志依氏、長岡造形大学准教授 澤田雅浩氏、人と防災未来センター研究員 渡邊敬逸氏よりご指導いただいた。

## 6 子どもワークショップ概要

### 1. ワークショップ開催の目的

中越大震災からの小千谷市の復興は、震災を経験した世代、すなわち震災前後の小千谷を知っている人たちが主役でした。彼らが主体となって、震災前の小千谷を回想しながら「よりよい小千谷」をめざして復興計画を策定し、その計画に基づいて復興の歩みをすすめてきました。しかし将来の小千谷は、この震災を経験していない世代、ずっと復興のプロセスの中で育ってきた世代が担い手の主役となります。そこで中越大震災から10年目にあたり、これら将来の小千谷を担う世代の意見も取り入れて復興の検証をすることを提案し、子供復興ワークショップを開催しました。

ワークショップ参加対象は、小学校高学年。彼らは、復興を進めてきた期間そのものが子供の頃から過ごしてきた日常と重なり、また震災以前の小千谷を知らない世代です。その世代が日々の生活の中で感じてきたこと、中越大震災からの教訓や大人から聞いたこと、東日本大震災の実体験や報道から感じたこと等から将来の災害に備えるために必要なこと、あるいは小千谷がさらに良くなるためのヒントなど、子供たちの思いやアイデアを、未来を担う世代からの提言としてまとめることを目的としました。

### 2. ワークショップの実施

子供ワークショップは、夏休み期間中の平成25(2013)年8月19日(月)に、小千谷市総合産業会館サンプラザで開催されました。参加者は市内の小学校5-6年生103名で、詳細は以下の表に示すとおりです。参加者は各班6~7名にわかれ、全15班の構成で実施しました。各班には大学生のファシリテータを1~2名配置し、参加者の作業の支援を行いました。

なお、各班の参加者は、基本的にメンバーが初対面になるように構成しました。



内容	詳細
実施日時	2013年8月19日(月)13:30~16:30
場所	小千谷市総合産業会館サンプラザ
参加者	103名(市内小学校5年生・6年生)
引率教員	12名
実施者・ファシリテータ	27名[内訳] 教員8名:同志社大学・常葉大学・京都大学・東北大学・人と防災未来センター 学生19名:同志社大学、常葉大学
記録	2名(市役所職員)

会場の様子(開会前)と実施概要

表1 子供ワークショップのスケジュール

時間	作業	内容詳細
13:30～13:35	はじめ・あいさつ	ワークショップ開始のあいさつ
13:35～13:40	自己紹介	各班での自己紹介
13:40～13:50	進め方の説明	ワークショップの進め方の説明
13:50～14:30	小千谷の先輩の話	① 関広一氏 ② 新谷梨恵子氏
14:30～14:45	休憩	
14:45～15:15	ワークショップ1	各班での作業(カード書き出し・班内共有・構造化)
15:15～15:30	ワークショップ2	各班での作業(カード3枚を選択・センターテーブルでのまとめ・構造化)
15:30～16:20	ワークショップ3	全員での意見投票
16:20～16:30	まとめ	ワークショップまとめ

ワークショップのスケジュールは表1のとおりです。まず中越大震災における小千谷市の経験を知るために、二人の先輩からお話をうかがいました。一人は、震災発生当時の小千谷市長であった関広一氏、もう一人は市内で農業法人を経営されている新谷利恵子氏です。



関広一氏（左）と新谷利恵子氏（右）の話

次に、二人の先輩の話を聞いて、①大切だと思ったこと、②小千谷の好きなところ、をカードに書き出しました。さらに、自分のカードを読み上げながら、班内で共有しました。これらのカードをファシリテーターの大学生の指導で、構造化してまとめました。



カードへの書き出し（左）とカードの構造化作業（右）

次に、班内で話し合って、各班が代表的な意見のカード3枚を選び、それを一つにまとめる作業をしました。最後に一つにまとめられたカードで、自分が最もよいと思う意見にシールを貼り付けて投票しました。

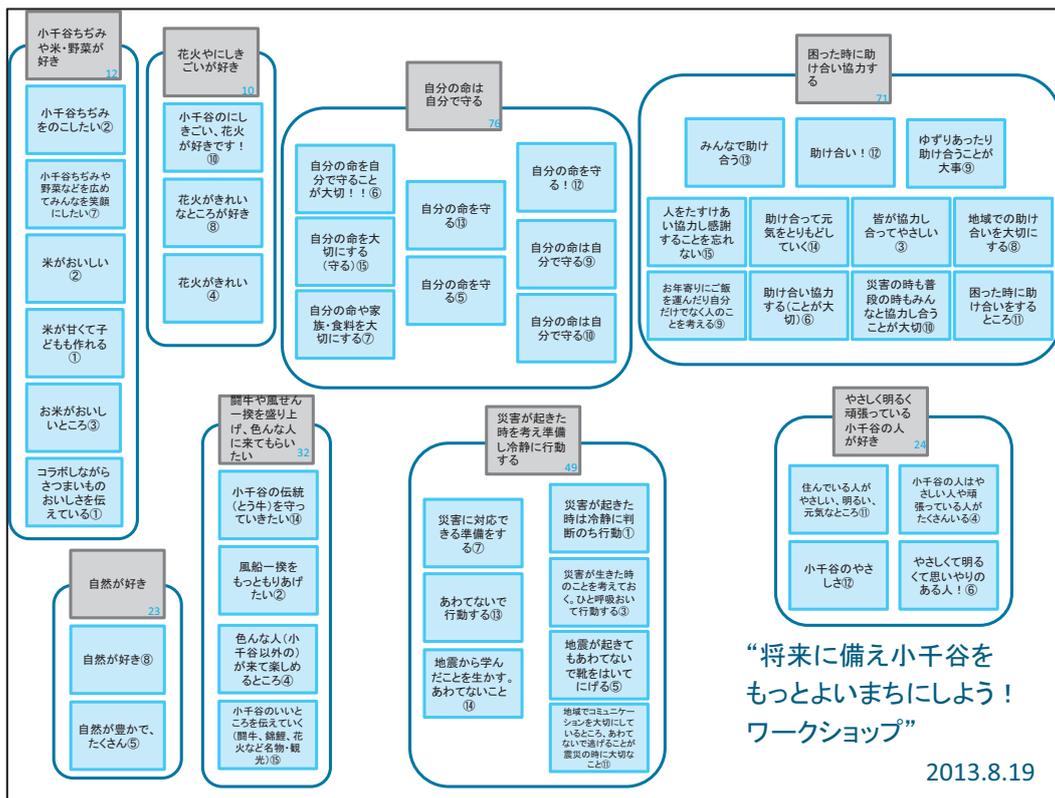


代表的な意見のカードで全体のまとめ（左）と投票結果（右）

### 3. ワークショップの結果

各班から選定された3枚のカードを全体でまとめたものを図1に示しています。大きく分けて8項目に分類されました。これらをまとめると、将来にわたって「なくしたくないこと、大切にしたいもの」として、小千谷の自然環境や祭りなどのさまざまなイベントなどがあげられています。さらに、やさしくて明るい小千谷の人間関係も、彼らにはかけがえのないものとして映っているようです。

一方、災害への備えについても、多くのことを学んでいました。特に「自分の身は自分で守る」という点や「困ったときの助け合い」は、多くの班からカードが提出されて、投票でも最高の得票数を得ており、大人から子供への震災の教訓の伝承がなされていることがうかがわれました。



ワークショップの結果(全体のまとめ)

#### 4. 復興検証としての子供ワークショップ

復興検証としての子供ワークショップ位置づけは、①震災の教訓は子供たちに伝わっているか、②子供たちは小千谷のどのようなところが好きなのか、という点について情報を得ることにありました。ワークショップの結果から、どちらの点についても積極的に評価できる結果が得られました。震災の教訓については、まず自分の命を自分で守る、災害時の冷静な行動、あるいは他人との協力など、防災に関する基本的な姿勢や「そなえ」の意識への理解が認められます。また、震災前の小千谷を知らない世代にも、小千谷の自然や祭りなど、地域の伝統の良さを感じる心が継承されており、大人の世代との価値観の連続性がうかがわれます。このように小千谷市の復興目標は、子供の世代とも共有可能であり、この目標にしたがって歩んできた小千谷市の復興プロセスは、市民全体に受け入れられるものであったといえる。

## 7 行政による復興事業検証概要

### 1. 行政検証の目的

復興計画では6つの復興課題と34の方針が定められました。それを実現するために計画された計256の個別事業が、どこまでどのように進んでいるのかを検証し、残された、あるいは新たに発生した課題を明らかにするために、主な実施主体である行政による検証を行いました。

### 2. 検証の内容及び方法

個別事業ごとに担当部署が進み具合や事業結果などを調査し、状況報告と評価を行いました。その評価を34の方針ごとにまとめ、それぞれABCOの4段階で総合評価を行いました。なお、評価の基準は次のとおりですが、実施見込みが立たないため断念したものが1事業あります。

A：完了／予定どおり進んでいる（実施度100%）

B：ほぼ予定どおり進んでいる（75%～99%）

C：予定より遅れている（75%未満）

O：評価が分かれている

### 3. 検証結果概要

総合評価としては事業全体の82.8%がA評価となり、うちすでに完了しているものが39.8%、現在進行中が43.0%となっており、計画された内容についてはおおむね予定どおり進行している結果となりました。

また、計画した当初から取り巻く状況や市民のニーズに変化があり、実施する必要のなくなった事業や方法を修正して実施すべきと判断されたものが12.5%ありました。

一方で、計画よりも進行が遅れている事業が3.9%あります。具体的には田園住宅の整備事業、環状道路整備事業、雁木通り整備事業等が挙げられます。実施できない理由としては、市民ニーズの変化による計画中断、国や県の認証が必要であること、市民が主体となって取り組むべきものなど、様々な状況の変化に合わせて臨機応変に対応する必要があることが挙げられます。

# 復興課題1 市民生活の復興

目標:生活を再建し、安心して生活できるまちにします

方針	施策	事業数	進捗状況						中期との比較
			A:24年度 未までに 完了	B:計画ど おり進行中	C:計画ど おりに進行 していない	D:今後取 り組む予定	E:実施し たくてもで きない	F:実施す る必要性 がない	
住宅の復興を支援し、生活の早期安定を図ります	自力住宅再建への支援をします	15	10	2				3	A:3減 F:3増
	集団・個別移転希望者への支援をします	3	3						
	高齢者など自己住宅再建の出来ない人のための公営住宅の整備を進めます	1	1						
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く) 100.00%		小計	19	14	2			3	

方針総合評価	所見
A	震災の影響による早期支援(住宅再建、集団移転支援、災害公営住宅整備等)は完了した。

地域の人が安心して暮らせるよう、心と身体のケアの仕組みを充実させます	震災からの復興のため、保健、医療、福祉サービスを充実させます	4	2	2					
	仮設住宅入居者や避難者へのきめ細かなケアを行います	1	1						
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く) 100.00%		小計	5	3	2				

方針総合評価	所見
A	計画された事業は概ね完了したが、心身のケア等は継続的課題であり、総合計画で対応する。

高齢者等の生活再建支援を進めます	高齢者のための介護を含む支援をします	8		8					
	高齢者の交通手段の確保をします	1		1					
	高齢者の健康づくりを進めます	3		3					
	障がい者への支援を進めます	4		4					A:4減 B:4増
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く) 100.00%		小計	16		16				

方針総合評価	所見
A	震災による高齢者等の生活再建支援は概ね完了した。

子どもたちが、生き生きと、明るく過ごせるまちにします	子どもたちが、生き生きと遊び、学べる環境を整備します	5	3	2					
	スポーツや文化活動を通して、子供たちのつながりを深めます	4	1	3					
	犯罪・事故から、子供を守ります	2		2					A:1減 B:1増
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く) 100.00%		小計	11	4	7				

方針総合評価	所見
A	震災の影響はほぼ脱したと思われるが、継続的課題であり、総合計画で対応する。

子育て環境の整備をして、「子育て世代住みやすいまち」にします	子育て世代を支援するための保育サービスを充実させます	2		2					
	子育ての地域サポート体制の仕組みをつくれます	6		6					
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く) 100.00%		小計	8		8				

方針総合評価	所見
A	計画された事業は概ね完了したが、継続的な課題であり、総合計画で対応する。

若者の定着のための支援を進めます	若者の定着のための支援を進めます	3	1	2					A:1増 B:1減
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く) 100.00%		小計	3	1	2				

方針総合評価	所見
A	計画された事業は概ね完了したが、継続的な課題であり、総合計画で対応する。

スポーツを通じて健全で健康なまちづくりを進めます	スポーツ振興施策を進めます	5	3	1		1			
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く) 80.00%		小計	5	3	1		1		

方針総合評価	所見
B	震災の影響はほぼ脱したと思われるが、長期的に検討が必要な課題があるため、総合計画で対応する。

## 復興課題2 産業・経済の復興

目標:豊かな自然の恵みを活かし、経済、産業を活性化します

方針	施策	事業数	進捗状況						中期との比較
			A:24年度 末までに 完了	B:計画ど おり進行中	C:計画ど おりに進行 していない	D:今後取 り組む予定	E:実施し たくてもで きない	F:実施す る必要が ない	
経済の早期復興を支援し、 市民生活の安定を図ります	被災によって縮小した企業活動を元 に戻すための支援を行います	4	2	2					A:1増 B:1減
	雇用維持と雇用創出を支援します	4	3					1	A:1減 F:1増
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く) 100.00%		小計	8	5	2				1

方針総合評価	所見
A	震災の影響による早期支援(企業活動の再開・就職支援等)は完了した。

農業基盤の早期復旧を支援 します	農地・農業用施設の早期復旧を進めま す	8	4					4	A:1減 B:3減 F:4増
	農地の復旧に当たっては、生産効率と 農業形態を考慮した整備を行います	5	2					3	A:3減 B:3増
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く) 100.00%		小計	13	6				7	

方針総合評価	所見
A	震災の影響による早期支援(施設復旧等)は完了した。

新しい農業のあり方を目指 します	農都共生により農村振興を図ります	13	5	2	1		1	4	A:2増 B:5減 C:1減 D:1減 E:1増 F:4増
	被災により再確認した食の大切さを忘れ ずに、安全性の高い地産地消の農業を 目指します	2	2						
	山間地域を中心として、棚田等の景観 保全を図ります	1		1					
	生きがい対策も含めた農業として、兼業 農家の意義の再確認や市民農園の整 備を進めます	2	1					1	A:1減 F:1増
	100年後も豊かな緑を残すために、植林 及び里山整備を奨励し支援します	2	1					1	A:1増 B:2減 F:1増
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く) 92.31%		小計	20	9	3	1	1	6	

方針総合評価	所見
B	計画策定後に状況が変化した課題もあり、継続的に 検討が必要なため、総合計画で対応する。

地場産業の高度な技術を活 かし、新産業への創造や、新 しい分野への進出を支援し ます	新産業の創造を支援します	1		1					A:1減 B:1増
	新しい分野への進出を支援します	1		1					
	高速インターネット基盤を整備し、商工 業情報の外部発信を支援します	1		1					
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く) 100.00%		小計	3		3				

方針総合評価	所見
A	産業の創造支援等は継続的課題であり、総合計画で 対応する。

商店街の活性化を図ります	被災した商店の復旧を支援し、早期の 商店街再生を支援します	2	1	1					B:1増 C:1減
	医療機関、バス停、アーケードがあり、魅 力にあふれた生活しやすい場所として の商店街を再生します	3	2					1	D:1減 F:1増
	雁木を活かした街並み再生を支援しま す	1	1						
	郊外型店舗の集客力を活かし、市街地 への誘客を図ります	1						1	C:1減 F:1増
	生活圏の商店街としての東小千谷商店 街復活を支援します	4	2	1				1	A:2増 B:3減 F:1増
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く) 100.00%		小計	11	6	2			3	

方針総合評価	所見
A	震災復旧は完了したが、経済状況等様々な影響を受 ける継続的課題であり、総合計画で対応する。

豊かな自然と文化をもつ、「復興のまち小千谷」をキーワードに、知名度を活かした販路拡大と観光振興を目指します	震災による知名度を活かして、地域商品・新製品開発による販路拡大を進めま	3	1	2					
	おいしい小千谷市の特産品、そば、米、酒、山菜などを消費者に直接販売する仕組みを作ります	3	1	1				1	A:2減 B:1増 F:1増
	「被災地小千谷」「復興のまち小千谷」をキーワードに、小千谷市の豊かな自然の恵みと、文化をPRします	2	2						
	自然の豊かさ、恵みを体験し、また、その脅威を学ぶ観光を目指します	1		1					A:1減 B:1増
	文化、伝統、歴史的価値を複合的に活用し、観光を広めます	3	1	2					
	雪。錦鯉、闘牛を生かした観光振興を進めます	9	7	2					A:1減 B:1増
	生活圏の商店街としての東小千谷商店街復活を支援します	2	1	1					A:1増 B:1減
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く)	100.00%	小計	23	13	9			1	

方針総合評価	所見
A	特産品の販路拡大や観光振興等は継続的課題であり、総合計画で対応する。

特区を利用して、産業の活性化を進めます	震災特区を利用して、産業の活性化を進めます	1						1	A:1減 F:1増
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く)	0.00%	小計	1					1	

方針総合評価	所見
断念	計画していた特区申請が認められなかったため、取り組みを終了した。

### 復興課題3 安全・安心な社会基盤、都市基盤の復旧・復興

目標:災害に強いまちになるよう、社会・都市基盤の整備を行います

方針	施策	事業数	進捗状況						中期との比較
			A:24年度未だに完了	B:計画どおり進行中	C:計画どおりに進行していない	D:今後取り組む予定	E:実施しなくてもできない	F:実施する必要性がない	
道路・河川の本格復旧を進めます	道路・河川の早期本格復旧を進めるとともに、経済性、機能性及び環境性を考慮した復旧を行います	13	2	8			1	2	A:1減 B:2減 C:1増 F:2増
	災害時に集落を孤立させないような道路整備を進めます	1						1	B:1減 F:1増
	市内環状線の歩道の早期整備を進めます	3	1				2		A:1増 B:3減 C:2増
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く)	100.00%	小計	17	3	8			3	

方針総合評価	理由
A	災害復旧工事は全て完了した。河川改修や道路整備等は継続的課題であり総合計画で対応する。

ガス、上下水道の早期復旧を進めます	管路、基幹施設の耐震化を進め、災害に強いガス、上下水道の本格復旧を進めます	8	5	2				1	B:1減 F:1増
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く)	100.00%	小計	8	5	2			1	

方針総合評価	所見
A	本格的な災害復旧工事は完了した。

二次災害を防ぐための調査と工事を進めます	地震で緩んだ地盤の、雪や雨による二次災害を防ぐために、調査と工事を進めます	2	2						
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く)	100.00%	小計	2	2					

方針総合評価	所見
A	震災による二次災害防止対策は完了した。

情報通信基盤の整備を進めます	災害時の情報伝達手段として、市全域のブロードバンド環境を整備します	1	1						B:1減 F:1増
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く)	100.00%	小計	1	1					

方針総合評価	所見
A	情報通信基盤整備の方法を光回線敷設に変更し実施。継続的課題であり、今後も継続して対応する。

## 復興課題4 コミュニティーの強化

目標：震災直後の人の輪、助け合いを財産として活かし、伝統文化や郷土愛にあふれる充実した地域コミュニティを創造します

方針	施策	事業数	進捗状況						中期との比較
			A:24年度 未までに 完了	B:計画ど おり進行中	C:計画ど おりに進行 していない	D:今後取 り組む予定	E:実施し たくてもで きない	F:実施す る必要が ない	
復興のために、市民のエネルギーを結集します	まちづくりを市民参画で行います	2		1	1				B:1減 C:1増
	市民の自主的な活動に対する支援を行います	3	2	1					A:1増 B:1減
	まちづくり協議会等の設置により、地震直後からの市民の復興意欲を大切に、明日のまちづくりを進めます	1						1	B:1減 F:1増
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く) 80.00%		小計	6	2	2	1			1

方針総合評価	所見
A	市民協働の推進によるまちづくりは継続的課題であり、総合計画で対応する。

地域の団結力を維持し、リーダーとなる人材を育成します	小千谷市の発展のために、人材をセミナー等で教育・育成します	3	1	2					A:1減 B:1増
	NPO、ボランティア活動を充実させます	1		1					A:1減 B:1増
	各地点の防災ボランティア組織をつくり、地域の点検と人の把握のサポート体制をつくります	2		2					
	地域が、助け合い支えあうコミュニティを確立します	3	1	2					A:1減 B:1増
	心の教育とともに、確かな学力を身につける教育を進めます	2	1	1					
	子供たちに、郷土愛を育む教育を行います	1		1					A:1減 B:1増
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く) 100.00%		小計	12	3	9				

方針総合評価	所見
A	リーダーの育成や地域コミュニティの確立等は継続的課題であり、総合計画で対応する。

まつり、イベント、歴史・文化を通じて、まちを活性化します	文化財の復旧を進めます	4	4						
	自然、特産品を活かしたイベント実施します	3	2	1					A:1増 C:1減
	中止、延期したイベントを復活します	4		4					A:1減 B:1増
	イベントスタッフの市民公募などにより、手作りでイベントを行います	3	1	1	1				A:1減 C:1増
	イメージキャラクターをつくり。復興に向けて団結します	1	1						
	地域のふれあいを大切にした復興を目指します	1		1					
	小千谷人気質を活かした、まちづくりを進めます	1	1						A:1増 B:1減
	歴史的な町並みをできるだけ保存します	1			1				A:1減 C:1増
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く) 88.89%		小計	18	9	7	2			

方針総合評価	所見
B	震災の影響はほぼ脱したと思われるが、市民が自助で行う事業への支援方法の検討が必要である。

国際社会に対応した地域コミュニティをつくります	国際社会に対応した地域コミュニティをつくります	1		1					
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く) 100.00%		小計	1		1				

方針総合評価	所見
A	国際社会への対応については継続的課題であり、総合計画で対応する。

地域通貨やコミュニティビジネスを活用して、地域課題の解決を図ります	地域の問題解決のために、地域通貨を利用して市民相互の助け合いを促進し	1			1				
	まちおこしと、地域課題の解決、活性化のために、コミュニティビジネスの可能性を検討します	1			1				
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く) 50.00%		小計	2		1	1			

方針総合評価	所見
C	地域通貨やコミュニティビジネスの活用には課題が多く、総合計画で対応する。

## 復興課題5 災害に強いまちづくり

目標:あらゆる災害に対応できる、事前・事後、復興までを見据えた、命を守る防災体制を、協働で構築します

方針	施策	事業数	進捗状況						中期との比較
			A:24年度 未までに 完了	B:計画ど おり進行中	C:計画ど おりに進行 していない	D:今後取 り組む予定	E:実施し たくてもで きない	F:実施す る必要が ない	
「私たちのまちは、私たちが 守る」を基本に、防災教育、 訓練、仕組みづくりを進めま す	子どもたちへの防災教育を進めます	1	1						
	10月23日を防災デーとして、市民参画 の防災訓練を行います	1		1					
	地理情報の共有化を図り、災害に備え た地図作りを進めます(危険区域、避難 所位置、井戸水・湧き水の場所など)	1		1					A:1減 C:1増
	災害時に備えた資源・物資の備蓄及び 調達方法を確立します	1		1					A:1減 C:1増
	自主防災組織の設置の推進を図ります	1		1					
	市民活動も含めた災害時のマニュアル 作成を進めます	1			1				A:1減 C:1増
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く)		6	1	4	1				83.30% ←

方針総合評価	所見
B	原子力災害への対応等により遅れている事業もあるが、継続的課題であり、総合計画で対応する。

被災の記録、震災体験を保存、記録し、その教訓を発信 します	メモリアルパークを建設し、地震の脅威 を後世に伝えます	3	1	1				1	A:1増 B:1減 D:1減 F:1増
	震災体験をまとめ、文集を作ります	1	1						
	映像、写真、報道記録の保存をします	1	1						
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く)		5	3	1				1	100.00% ←

方針総合評価	所見
A	震災の記録・保存は一定程度確保できた。教訓の発信は継続的課題であり、総合計画で対応する。

災害時の情報伝達手段の整備と確立を図ります	市役所と町内を結ぶ、災害時の情報伝 達手段の整備をします	2		2					A:1減 B:1増
	停電時等に備えて、ハイテクに頼らない 情報伝達手段を確立します	2	1					1	A:1増 B:1減 C:1減 F:1増
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く)		4	1	2				1	100.00% ←

方針総合評価	所見
A	防災ラジオの配置等により目的はほぼ達成したが、継続的課題であり、総合計画で対応する。

震災の教訓を活かし、他地域、全国への貢献をします	支援・救済物資の備蓄と、輸送・調達方 法を確立します	1		1					
	他地域で災害が起こったときの支援体 制をつくります	1		1					
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く)		2		2					100.00% ←

方針総合評価	所見
A	ネットワークおぢやの発展等により体制は整ったが、継続的課題であり、総合計画で対応する。

住宅、建物、まちの防災力を 高めます	個人住宅の耐震性強化を促進するた めの補助等の制度をつくります	1		1					B:1減 C:1増
	学校、体育館等の公共施設の耐震性を 強化し、緊急時の避難所としての能力を 宅地造成を行うときは、防災機能を有し た団地造成に努めます	2	2						A::1増 B:1減
		1		1					
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く)		4	2	1	1				75.00% ←

方針総合評価	所見
B	個人住宅の耐震化を含め、まちの防災力向上は継続的課題であり、総合計画で対応する。

災害時の応援体制や、サ ポート体制をつくります	行政、医療機関、事業者による災害時 支援体制を確立します	1	1						
	24時間体制の弱者サポート体制をつ くります	1		1					
	他市町村との災害時の相互応援協定を 結びます	1		1					
	災害時に備えたボランティアセンターの 組織整備を進めます	1		1					A::1減 B:1増
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く)		4	1	3					100.00% ←

方針総合評価	所見
A	災害時の応援体制は整ったが、災害時相互応援協定等は継続的課題であり、総合計画で対応する。

## 復興課題6 復興の進め方

目標:財政破綻をしない復興、市民全員の復興、全国に対する誇りを持った復興をします

方針	施策	事業数	進捗状況						中期との比較
			A:24年度 未までに 完了	B:計画ど おり進行中	C:計画ど おりに進行 していない	D:今後取 り組む予定	E:実施し たくてもで きない	F:実施す る必要性 がない	
財政破綻を起こさないペースで復興する	短期に授業が集中し、地元業者で対応できないことのないように、ペースを考えて復興します	1		1					
	復興のための施策・事業に順位をつけて、市民で合意して復興します	1		1					
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く) 100.00%		小計	2	2					

方針総合評価	所見
A	震災復興による財政破綻は回避されたため、取り組みを完了した。

方針	施策	事業数	進捗状況						中期との比較
			A:24年度 未までに 完了	B:計画ど おり進行中	C:計画ど おりに進行 していない	D:今後取 り組む予定	E:実施し たくてもで きない	F:実施す る必要性 がない	
行政コストの削減を進める	人件費の削減を図ります	1	1						
	施設やインフラ整備にあたっては、費用対効果を考え、順位をつけて必要なものから行います 場合によっては我慢します	1						1 B::1減 F:1増	
	今まで行ってきた事業を見直し、新しい発想で歳出の削減に取り組みます	2	1	1				A::1増 B:1減	
	ごみの有料化など、他市町村で有効と判断された施策を積極的に取り入れま	2		2					
	市の事業で市民の助け合いによってできるものは、市民の手で行います	1		1				A::1減 B:1増	
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く) 100.00%		小計	7	2	4			1	

方針総合評価	所見
A	継続的課題であり、総合計画で対応する。

方針	施策	事業数	進捗状況						中期との比較
			A:24年度 未までに 完了	B:計画ど おり進行中	C:計画ど おりに進行 していない	D:今後取 り組む予定	E:実施し たくてもで きない	F:実施す る必要性 がない	
復興のなかで行政運営の進め方を考え直す	今までの仕組みにこだわらず、改革を進めます	1	1					A:1増 B:1減	
	市民への情報開示、情報共有を進めます	2	1	1				A::1増 B:1減	
	市民のなかに、不公平感の残らぬよう、復興の押し付けにならないよう復興を進めます	1						1 B::1減 F:1増	
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く) 100.00%		小計	4	2	1			1	

方針総合評価	所見
A	継続的課題であり、総合計画で対応する。

方針	施策	事業数	進捗状況						中期との比較
復興のための資金作りを進める	必要なくなった私有財産や、民間で経営できる事業については、売却して復興資金にあてます	1			1				
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く) 100.00%		小計	1		1				

方針総合評価	所見
A	継続的課題であり、総合計画で対応する。

方針	施策	事業数	進捗状況						中期との比較
			A:24年度 未までに 完了	B:計画ど おり進行中	C:計画ど おりに進行 していない	D:今後取 り組む予定	E:実施し たくてもで きない	F:実施す る必要性 がない	
全国からの注目に対して、誇りを持って復興を進める	全国からの注目に対して、誇りを持って復興を進めます	1			1				
	震災時の支援への感謝を、全国に発信します	2	1	1					
	市民の手による住みよいまちづくりを進めます	1	1					A::1増 B:1減	
A+B/方針ごとの事業数(E、Fを除く) 100.00%		小計	4	2	2				

方針総合評価	所見
A	震災の影響はほぼ脱したと思われるため、事業実施による震災からの復興は概ね終了した。

事業合計数: 256

完了	進行中	遅れている	今後実施	できない	必要がない
103	110	7	1	4	31
40.2%	43.0%	2.7%	0.4%	1.6%	12.1%

## 8 中越大震災ネットワークおぢや

中越大震災ネットワークおぢやは、平成 17 年 10 月、災害時における自治体の災害対応の教訓の共有化を促進するとともに、災害発生時における市町村職員の災害対応業務支援のための情報の提供と経験職員派遣の調整を行うことを目的に設立されました。

阪神淡路大震災以降、大規模な災害による被災経験を持つ自治体と、被災経験はないが応援活動等を通じて災害対応のノウハウを学ぶ意思のある自治体を会員とし、会員自治体が被災した場合には即座に応援活動を開始します。しかしながら、あくまで自治体同士による任意の組織であり、強制的に応援をする義務はなく、自治体の事情に合わせ緩やかなきずなで広域応援活動を行っています。

小千谷市発の取り組みが評価され、第 18 回防災まちづくり大賞（平成 26 年 1 月 30 日発表）で、防災に関する優れた取り組みを行っている団体として、最高賞である総務大臣賞を受賞しました。



総会及び研修会の様子（平成 25 年 8 月）



住家の被害認定調査実地研修会の様子  
（平成 25 年 10 月）



東日本大震災被災地（千葉県浦安市）支援の様子  
（平成 23 年 3 月）



第18回防災まちづくり大賞において  
総務大臣賞を受賞（平成 26 年 1 月 30 日発表）

## 9 十二平の今～集団移転を振り返って

鈴木俊郎さん（屋号・じろべえ）は震災前からずっと十二平地区のまとめ役や行政との交渉役をしていた。いつもの、秋晴れの平成 16（2004）年 10 月 23 日、忘れることができない中越大震災が集落を襲い、さっきまで家族で住んでいた家や、先祖代々受け継いできた田畑・養鯉池を破壊した。外へ通じる道路は全て寸断され、陸の孤島となった集落内の道路に書かれた「SOS」の文字を捉えた映像は、今も多くの人の心に焼きついている。ヘリコプターで避難した十二平地区の 11 世帯は、集落の存続について毎日話し合い、全員で集団移転することを決めた。現在は市内中心部近くに新しい居を構えて暮らしている。十二平を守る会会長でもあるじろべえさんに、この 10 年の経過を振り返り、話を聞いた。



空撮ではっきり分かる SOS の文字

—10 年経って、色々な意味でひと区切りだと思います。当初、10 年後を見据えて復興計画を作りましたが。その時に考えていた理想と今の現実との差をどう評価するかお伺いしたいと思っています。今から振り返って、あれはよかったとか失敗したということをお伺いしたいのですが。

まず最初に避難だね、一番よかったのは、たまたま隣の家の息子が SOS を書いてヘリコプターに向けて信号を送ったんだ。それで私達は早く避難できた。全く連絡方法がなかったからね。

でも、その時に準備の問題があったけどね。SOS を書いたら不意にヘリが降りてきたので、早く乗ろう、早く逃げようという気持ちが先走って、準備がないまま着の身着のまま避難したから避難先で色々問題が起きた。財布を持っていない、現金を置きっぱなしだったとか。

—なるほど。こんなに長く戻れないと思わなかったのですか？

最初はみんなすぐに戻れると思っていたよ。何度も何度も交渉して、ようやくヘリを出してもらえることになった。

行ったのはよかったけれど、周囲にできていた災害ダムが心配で、結局はヘリが来れば大急ぎで乗ってしまった。気が動転していたのかな。

—長岡の息子さん宅への転居は考えませんでしたか？市外ではだめですか。

将来は長岡にいる息子と一緒に住むことを考えていたが、山から下りるのは抵抗がなくても、やっぱり小千谷を離れるというわけにはいかなかった。市外はだめだ。仕事に山に通うには同じけど、やっぱり気持ち的にはこっちの方が。今の町内（千谷）には娘がいるし、知っている人がいっぱいいる。

—震災後すぐに山を下りることを決めたそうですが、決断が早かったのではないですか？

気持ちとしては絶対早い方がいい。今、東北の人はこれだけの時間がかかってやっと土地の選定

ができたところ。これから造成だからまだまだ家は建たない。その間にじっくり考えると、ここはどうだ、あれは高いなどと迷う。自分は決断が早くて間違っただとは思わない。

復興基金のおかげで養鯉池も復旧できた。池やハウスは滅茶苦茶で、親鯉は一匹もない状態だった。道路やライフラインの影響もあって、始めるまで2年かかったけどね。鯉も田んぼもやらなくちゃいけないから、毎日のように十二平に通っているよ。

—集落のみんなで集団移転を決めたことは間違いではなかったですか？

仮設住宅に入ってすぐ、行政に相談に行った。それからみんなで話し合いを始めた。何度も話し合っ、だいたい3ヶ月くらいで意見がまとまったから、すぐに集団移転の要望を市長に出した。三仏生を移転先に要望し、最終的に希望どおりになった。ここは町もスーパーも近くて便利だから。移転のことをみんなで話し合っていると、多くの人がもう十二平に住み続けるのは難しいと思っていることが分かった。震災前から、いずれは山を降りなくちゃならないと思っていたと言った人も多かった。震災がきっかけで集団移転という道を選んだが、みんなで話し合った結果だ。個別の問題はあったが、今考えても移転は間違いではなかったと思う。

—この辺の復興のスピードというのはどうですか？こんなものだと思いますか？

私は早いと思う。東日本大震災と比較しなくてもね。5年や10年はかかると思った、元に戻るには。道路はいつか直ると思ったけど、自分で錦鯉を始められるのがこうも早いとは思わなかった。

一番はやっぱりお金の問題。行政や復興基金からのお金。やはり自力ではさっさとできない。どんどん制度が変わっていき、神社仏閣なんかも対象になって。制度の対応も早いと思った。

—もう十二平に住まないことにしたけど、田んぼや池があるから守らなくてはどう思った？



十二平を示す「じよんでえら」の碑

そう。だから守る会を作って。みんなが、何であんなところに公民館があるんだと驚いているけど、そうじゃなくて「よりどころ」だと。みんなの気持ちのよりどころで、山で山菜採りをしたり、畑や田んぼに行ったりして大勢来たら、あそこで一日のんびりすればいいと思って作ったんだ。十二平を離れた後に繋ぎとめてるのは、公民館と神社と守る会の活動だと思う。

—俊郎さんはこの10年の復興をどう思いましたか？

俺は非常にうまく復興したと思う。

丸5年くらいでかなり復興して、そんなに大きな問題はないと思った。土地の問題も、ライフラインもそう、その土地に慣れてくれば、これ以上望むことはあまりなくなった。5年間のうちに終わらせてしまった。復興は早かったと私は思う。

—自分が思ったことができる、これ以上望むことはないなと思ったら復興なのでしょうか？

これからの望みも課題もまだあるけどね。それでも何とか安定した生活を送れている。そういう面では震災からの復興はある程度実現したと思う。

—では最後に、当初予定していた、想像していた復興と今の状況を考えてどうでしょう？落差はあるんでしょうけど、その差は大きいかどうか。理想と現実はどのくらい違ったかでもいいですけど。

俺の考えでは、思っていたより良かった。まさか道路を元より良くしてもらったとか、農地の復旧や堰堤を整備して災害が起きないようにしてもらったとか、集落の中によりどころができるなんて思わなかった。色々な人が十二平に来てくれて、交流や絆もできた。そういう面では復旧も復興も思っていたより良かったし早かった。

—いろいろな制度があったけど、他の集落と比べても制度や基金を上手に使ったからなのか。

制度もそうだけど、やっぱり問題は基金。いかに上手に取り入れて使ったか。復旧復興も早く、自分で出すお金もそんなに必要なかった。そういう面では、俺はみんなですぐ使ったと思う。他の地区では、集団移転じゃなくて個別移転で半分以上山を下りている町内もある。そういった地域では、時間と共に心の問題が非常に表れてきており、今まで共同で行っていたのが気まづくなったとか、わだかまりが表に出ている。

—集団移転とは何だったのか。

昔に魚沼であった集団移転の事情を知っていたからね。そんなに不安もなかったし、過度の期待もなかった。いずれは山を下りる必要があると思っていたけど、こんなに早くなるとは思わなかった。でも、ある意味震災がきっかけで将来のことをみんなで真剣に考えだし、みんなで下りることができた。それが、気持ちの上で大きかったんじゃないかな。新しい生活を始める踏ん切りもついたしね。

インタビューからしばらく経って、じろべえさんと十二平で待ち合わせをした。自分たちで直したお宮や思い出の場所を案内してもらった後、養鯉ハウスを兼ねた作業小屋で色々な話を聞いた。集落を降り、新しい生活に馴染むには10年は十分な時間だったとのこと。それでも十二平で鯉を飼い、田を作り、毎日のように通いながら生活している。住居は移っても、ふるさとへの思いは持ち続けている。

集団移転制度は人と集落の大きな転機であったが、ある意味では区切りと生活再編の機会を与えてくれたんだ、と話す横顔はいつもと変わらぬ笑顔であった。



じろべえさんの家があった場所に立つ石碑

# 10 新潟県中越大震災復興基金 小千谷市利用状況

上段：実績件数（件）  
下段：確定額（千円）

事業名	メニュー名	担当課	事業期間		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	合計
			開始	終了										
被災者生活支援対策事業	応急仮設住宅維持管理等	建設	H17	H19	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3
					117,845	28,688	12,536	0	0	0	0	0	159,069	
	地域コミュニティ再建（ソフト）	生涯	H17	H23	13	32	166	178	188	0	0	0	0	577
					3,774	11,214	49,756	50,191	43,062	0	0	0	157,997	
	仮設住宅等生活交通確保	商工	H17	H19	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
					0	3,762	3,803	0	0	0	0	0	7,565	
	情報通信基盤施設復旧・整備	総務	H17	H19	0	5	3	0	0	0	0	0	0	8
					0	1,340	780	0	0	0	0	0	2,120	
	復興ボランティア活動支援	社福	H17	H22	0	3	7	5	0	0	0	0	0	15
					0	407	947	665	0	0	0	0	2,019	
	地域コミュニティ施設等再建支援（ハード）	生涯	H18	H21	0	59	147	81	28	0	0	0	0	315
					0	100,824	399,943	430,583	104,854	0	0	0	1,036,204	
	地域共用施設等復旧支援	建設	H18	H21	0	44	92	56	28	0	0	0	0	220
					0	74,473	255,655	254,922	88,070	0	0	0	673,120	
	集落共用施設等維持管理支援	生涯	H18	H21	0	2	4	5	0	0	0	0	0	11
					0	1,950	28,050	24,450	0	0	0	0	54,450	
	水道施設整備支援	ガ水	H18	H21	0	6	1	2	0	0	0	0	0	9
					0	11,339	2,405	3,973	0	0	0	0	17,717	
	被災児童生徒の学区外通学支援	学教	H18	H21	0	0	14	9	4	0	0	0	0	27
0					0	806	3,532	1,006	0	0	0	5,344		
地域生活利便性確保（小売・サービス業再開支援）	商工	H18	H21	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
				0	0	0	6,260	0	0	0	0	6,260		
社会福祉施設等災害復旧支援	社福・保福	H18	H20	0	0	4	1	0	0	0	0	0	5	
				0	0	4,621	21,274	0	0	0	0	25,895		
医療施設等災害復旧支援	健七	H19	H19	0	0	9	0	0	0	0	0	0	9	
				0	0	78,638	0	0	0	0	0	78,638		
中山間地域再生総合支援	建設	H19	H23	0	0	1	9	10	6	0	0	0	26	
				0	0	2,009	100,418	129,296	69,470	0	0	301,193		
生活（14）小計				14	153	450	347	258	6	0	0	0	1,228	
				121,619	233,997	839,949	896,268	366,288	69,470	0	0	0	2,527,591	
雇用対策	雇用維持奨励金	商工	H17	H17	16	0	0	0	0	0	0	0	0	16
					21,479	0	0	0	0	0	0	0	21,479	
	被災地域緊急雇用創出	商工	H17	H21	11	11	15	15	15	0	0	0	0	67
					139,513	128,823	179,650	200,594	185,507	0	0	0	834,087	
雇用（2）小計				27	11	15	15	15	0	0	0	0	83	
				160,992	128,823	179,650	200,594	185,507	0	0	0	0	855,566	

上段：実績件数（件）  
下段：確定額（千円）

事業名	メニュー名	担当課	事業期間		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	合計	
			開始	終了											
被災者住宅支援対策事業	被災者住宅復興資金利子補給（後払い方式）	建設	H17	H25	300	704	651	1,168	1,270	1,258	628	538	179	6,696	
					13,882	68,181	78,462	149,727	172,749	164,624	79,203	67,757	21,791	816,376	
	高齢者・障害者向け住宅整備支援	社福・保福	H17	H21	13	27	97	53	28	0	0	0	0	218	
					2,545	5,736	18,204	8,475	4,561	0	0	0	0	39,521	
	雪国住まいづくり支援	建設	H17	H21	287	400	236	147	85	0	0	0	0	1,155	
					181,329	208,502	143,451	86,734	52,083	0	0	0	0	672,099	
	被災宅地復旧工事	建設	H17	H21	15	42	29	20	9	0	0	0	0	0	115
					7,981	32,817	31,762	16,310	9,979	0	0	0	0	98,849	
	県産瓦使用屋根復旧支援	建設	H17	H21	4	5	6	4	5	0	0	0	0	0	24
					1,904	3,067	3,956	2,251	3,752	0	0	0	0	14,930	
	越後杉で家づくり復興支援	農林	H17	H21	54	98	67	42	29	0	0	0	0	0	290
					46,623	80,388	58,487	38,628	24,200	0	0	0	0	248,326	
	被災宅地復旧調査	建設	H17	H17	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
					1,764	0	0	0	0	0	0	0	0	1,764	
	住宅債務（二重ローン）償還特別対策	建設	H17	H21	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3
					0	826	1,785	0	0	0	0	0	0	2,611	
	高齢者ハウス整備・運営	保福	H18	H25	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
					0	0	0	39,322	0	0	0	0	0	39,322	
	公営住宅入居支援	建設	H18	H25	0	64	73	68	66	67	61	0	0	0	399
					0	1,502	2,893	2,689	2,597	2,634	2,401	0	0	14,716	
民間賃貸住宅入居支援	建設	H18	H25	0	5	54	51	50	41	28	0	4	233		
				0	522	7,018	7,348	6,686	6,218	3,527	0	762	32,081		
親族宅等同居支援	社福・保福	H18	H25	0	22	75	93	78	72	39	28	0	0	407	
				0	3,720	13,840	15,960	12,600	11,440	6,880	980	0	65,420		
緊急不動産活用型住宅再建資金融資（リバースモーゲージ）	保福	H18	H20	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
				0	0	23,987	0	0	0	0	0	0	23,987		
放置危険物解体撤去支援	建設	H22	H23	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
				0	0	0	0	0	0	44,360	0	0	44,360		
住宅（14）小計				682	1,368	1,292	1,647	1,620	1,438	757	566	183	9,553		
				256,028	405,261	383,845	367,444	289,207	184,916	136,371	68,737	22,553	2,114,362		
産業対策事業	平成16年大規模災害対策資金特別利子補給	商工	H17	H25	112	129	129	123	119	77	30	8	1	728	
					22,999	41,033	39,363	35,029	27,220	11,727	3,528	621	41	181,561	
	「平成16年新潟県中越地震」災害融資特別利子補給	商工	H17	H22	73	83	82	52	0	0	0	0	0	290	
					2,731	4,099	3,370	1,043	0	0	0	0	0	11,243	
	平成16年大規模災害対策資金特別保証料負担金	商工	H17	H20	77	24	5	2	0	0	0	0	0	108	
					23,088	25,280	3,803	329	0	0	0	0	0	52,500	
	事業所解体撤去支援補助	商工	H17	H20	43	14	4	0	0	0	0	0	0	61	
					150,611	40,215	4,740	0	0	0	0	0	0	195,566	
	伝統的工芸品生産設備等復旧支援	商工	H17	H17	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
					14,201	0	0	0	0	0	0	0	0	14,201	
	中小企業者仮設店舗等設置	商工	H17	H21	32	16	10	9	2	0	0	0	0	69	
					55,594	18,270	15,817	14,284	1,188	0	0	0	0	105,153	
	市町村震災関連制度融資特別利子補給	商工	H17	H25	88	86	77	73	71	22	0	0	0	417	
					10,749	9,071	6,703	5,070	3,331	159	0	0	0	35,083	
	市町村震災関連制度融資特別保証料負担金	商工	H17	H20	35	0	0	0	0	0	0	0	0	35	
					9,731	0	0	0	0	0	0	0	0	9,731	
	被災商店街復興対策支援	商工	H18	H21	4	4	12	13	22	0	0	0	0	55	
					3,829	3,702	22,642	17,792	22,704	0	0	0	0	70,669	
	組合共同施設等復旧支援	商工	H18	H20	0	4	1	0	0	0	0	0	0	5	
					0	19,093	745	0	0	0	0	0	0	19,838	
被災中小企業者緊急経済対策利子補給	商工	H20	H23	0	0	0	0	34	0	0	0	0	34		
				0	0	0	0	23,965	0	0	0	0	23,965		
製造業技術継承支援	商工	H21	H24	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3		
				0	0	0	0	10,534	14,712	15,772	0	0	41,018		
産業（12）小計				477	360	320	272	249	100	31	8	1	1,818		
				293,533	160,763	97,183	73,547	88,942	26,598	19,300	621	41	760,528		

上段：実績件数（件）  
下段：確定額（千円）

事業名	メニュー名	担当課	事業期間		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	合計
			開始	終了										
農林水産業 対策事業	中越大震災復興関係資金利子 等助成	農林	H17	H24	1	1	1	1	1	0	0	0	0	5
					7	596	485	308	215	0	0	0	0	1,611
	畜産廃棄物処理経費補助	農林	H17	H19	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
					800	0	0	0	0	0	0	0	0	800
	経営再建家畜導入支援	農林	H18	H21	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3
					0	0	1,071	0	6,720	0	0	0	0	7,791
	飼育魚避難輸送経費助成	農林	H17	H17	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
					1,834	0	0	0	0	0	0	0	0	1,834
	一時避難飼育魚管理経費助成	農林	H17	H20	13	12	9	5	0	0	0	0	0	39
					1,749	1,532	1,776	1,782	0	0	0	0	0	6,839
	錦鯉養殖業廃棄物処分費助成	農林	H17	H20	6	5	3	0	0	0	0	0	0	14
					9,427	4,977	2,998	0	0	0	0	0	0	17,402
	錦鯉生産確保緊急支援	農林	H18	H20	0	17	21	5	0	0	0	0	0	43
					0	3,400	4,200	900	0	0	0	0	0	8,500
	手づくり田直し等支援	農林	H17	H21	426	910	548	69	50	0	0	0	0	2,003
					94,212	236,787	157,900	21,929	18,264	0	0	0	0	529,092
	農林水産業経営再建整備支援	農林	H17	H21	1	0	4	0	0	0	0	0	0	5
					1,207	0	11,091	0	0	0	0	0	0	12,298
	代替農地等営農継続支援	農林	H17	H19	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
					0	19,405	8,816	0	0	0	0	0	0	28,221
農業用水水源確保支援	農林	H17	H21	0	0	26	14	4	0	0	0	0	44	
				0	0	41,687	31,898	6,907	0	0	0	0	80,492	
養鯉池水源確保支援	農林	H18	H20	0	2	29	26	0	0	0	0	0	57	
				0	2,228	53,005	76,969	0	0	0	0	0	132,202	
緊急手づくり田直し等総合支 援	農林	H18	H21	0	1	24	18	4	0	0	0	0	47	
				0	11,862	89,618	54,683	9,200	0	0	0	0	165,363	
災害査定設計委託費等支援	農林	H18	H20	0	87	8	2	0	0	0	0	0	97	
				0	73,238	75,521	2,125	0	0	0	0	0	150,884	
地域営農活動緊急支援	農林	H18	H22	0	1	2	2	5	7	0	0	0	17	
				0	15,794	37,468	24,446	84,429	175,403	0	0	0	337,540	
災害復旧事業費等負担金支援	農林	H18	H20	0	18	95	1	0	0	0	0	0	114	
				0	22,134	60,781	292	0	0	0	0	0	83,207	
森林整備緊急支援	農林	H19	H21	0	0	6	1	5	0	0	0	0	12	
				0	0	535	39	769	0	0	0	0	1,343	
錦鯉復興支援	農林	H20	H24	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	
				0	0	0	6,615	7,840	0	0	0	0	14,455	
農林（18） 小計				450	1,055	779	145	71	7	0	0	0	2,507	
				109,236	391,953	546,952	221,986	134,344	175,403	0	0	0	1,579,874	
観光	観光復興キャンペーン推進	商工	H17	H24	1	1	1	2	5	3	3	3	0	19
					1,512	1,937	5,001	9,094	18,396	8,607	6,984	4,555	0	56,086
教育文化 対策	「牛の角突き」復興支援	商工	H17	H22	0	8	8	2	0	1	0	0	0	19
					0	9,969	30,955	11,867	0	17,100	0	0	0	69,891
	私立学校施設設備災害復旧支 援	学教	H19	H19	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
					0	0	3,518	0	0	0	0	0	0	3,518
	指定文化財等災害復旧支援	生涯	H19	H21	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
					0	0	4,201	0	0	0	0	0	0	4,201
	民俗資料・歴史資料保存支援	生涯	H19	H21	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
0					0	0	217	0	0	0	0	0	217	
教育（4） 小計				0	8	12	3	0	1	0	0	0	24	
				0	9,969	38,674	12,084	0	17,100	0	0	0	77,827	
記録	「復興と感謝のモニュメン ト」等設置支援	総務	H20	H21	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
					0	0	0	2,968	740	0	0	0	0	3,708

上段：実績件数（件）  
下段：確定額（千円）

事業名	メニュー名	担当課	事業期間		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	合計
			開始	終了										
地域復興支援事業	復興支援ネットワーク	企画	H17	H22	0	0	2	10	2	2	0	0	0	16
					0	0	5,963	14,565	8,148	7,069	0	0	0	35,745
	地域復興支援員設置支援	企画	H19	H26	0	0	0	1	1	1	1	1	1	6
					0	0	0	36,221	53,832	50,728	49,957	49,255	39,374	279,367
	地域復興デザイン策定支援	企画	H19	H23	0	0	3	2	1	2	1	0	0	9
					0	0	19,738	8,050	4,548	5,842	3,432	0	0	41,610
	地域復興デザイン先導事業支援	企画	H19	H24	0	0	1	1	3	2	2	1	0	10
					0	0	4,671	5,290	11,735	8,069	14,783	2,745	0	47,293
	地域経営実践支援	企画	H24	H26	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
					0	0	0	0	0	0	0	3,778	2,172	5,950
	地域資源活用・連携支援	企画	H24	H26	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
					0	0	0	0	0	0	0	0	800	800
	地域特産化・交流支援	農林	H19	H22	0	0	0	4	7	6	0	0	0	17
					0	0	0	2,288	5,382	56,105	0	0	0	63,775
震災フェニックス 震災から立ち上がる文化の祭典開催支援	生涯	H20	H21	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
				0	0	0	3,500	0	0	0	0	0	3,500	
集落再生通信網整備モデル支援	総務	H21	H22	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	
				0	0	0	0	0	16,767	0	0	0	16,767	
地域（8）小計				0	0	6	19	14	15	4	3	3	64	
				0	0	30,372	69,914	83,645	144,580	68,172	55,778	41,546	494,007	
二重被災	産業関係：平成16年大規模災害対策資金特別利子補給	商工	H20	H21	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
					0	0	0	0	702	0	0	0	0	702
合計（75）														15,300
														8,470,251

## 復興計画及び復興検証に携わった歴代委員名簿

### ■小千谷市復興計画策定委員会名簿（平成 17（2005）年・計画策定時）

委員長	丸山久一	（長岡技術科学大学理事・副学長）
副委員長	重川希志依	（富士常葉大学教授）
委員	木村一男	（新潟県議会議員）
委員	平澤修爾	（新潟県長岡地域振興局長）
委員	吉原正幸	（小千谷市議会議長）
委員	石坂和男	（小千谷市議会震災復興特別委員会委員長）
委員	鞍立常行	（小千谷市教育委員会委員長）
委員	根元純一	（小千谷市魚沼市川口町医師会副会長）
委員	大平佳代子	（介護老人保健施設 春風堂 事務長）
委員	友田明石	（越後おぢや農業協同組合組合長理事）
委員	山岸義之助	（小千谷商工会議所会頭）
委員	片山高志	（本町商店街振興組合組合長）
委員	小見山政治	（小千谷観光協会会長）
委員	廣川利夫	（小千谷市建設業協会会長）
委員	石田昭浩	（連合魚沼地域協議会議長）
委員	広井一	（東山地区振興協議会会長）
委員	込田善明	（吉谷地区町内会長協議会会長）
委員	木原聡太郎	（東小千谷町内会長・区長協議会会長）
委員	藤巻吉一	（真人地区町内会長協議会会長）
委員	谷井靖夫	（小千谷市総合計画審議会委員長）
委員	大塚誠	（小千谷市総合計画審議会副委員長）
委員	丸山春治	（小千谷市総合計画審議会委員）
委員	山本千々子	（小千谷市総合計画審議会委員）
委員	宮崎悦男	（小千谷市総合計画審議会委員）

### ■小千谷市復興推進委員会名簿（平成 20（2008）年・短期検証時）

委員長	田中聡	（富士常葉大学教授）
副委員長	木原聡太郎	（元復興計画策定委員）
委員	田村圭子	（新潟大学教授）
委員	大塚誠	（元総合計画審議会副会長）
委員	水口正行	（西小千谷地区町内会長協議会会長）
委員	友野伸一	（前塩谷・十二平地区民生委員）
委員	五十嵐啓子	（魚沼病院）
委員	井口貴之	（市民公募）
委員	関川捷次	（市民公募）
委員	新谷梨恵子	（市民公募）

## ■小千谷市復興推進委員会名簿（平成23（2011）年8月・中期検証時）

委員長	田中 聡	（富士常葉大学教授）
副委員長	鞍立 常行	（元復興計画策定委員）
委員	田村 圭子	（新潟大学教授）
委員	須原清一郎	（東小千谷地区町内会長協議会会長）
委員	吉田 斉	（前吉谷地区町内会長協議会会長）
委員	関 邦宇	（前東山地区振興協議会会長）
委員	富澤 武治	（真人地区町内会長協議会会長）
委員	小川 晃	（復興支援室）
委員	阿部 尚子	（健康センター）
委員	木村 茂穂	（小千谷商工会議所専務理事）
委員	谷口 熊一	（越後おぢや農業協同組合専務理事）
委員	桑野 敏久	（市民公募）

## ■小千谷市復興推進委員会名簿（平成26（2014）年10月15日現在）

委員長	田中 聡	（常葉大学教授）
副委員長	西脇 英郎	（西小千谷地区町内会長協議会会長）
委員	田村 圭子	（新潟大学教授）
委員	牧 紀男	（京都大学教授）
委員	勝又 幸博	（東小千谷地区町内会長協議会会長）
委員	風巻 正長	（吉谷地区町内会協議会会長）
委員	早川 輝己	（前東山地区振興協議会会長）
委員	瀧澤 功	（真人地区町内会長協議会会長）
委員	鈴木 俊郎	（十二平を守る会会長）
委員	小川 晃	（復興支援室）
委員	阿部 尚子	（健康センター）
委員	木村 茂穂	（小千谷商工会議所専務理事）
委員	小林 幸夫	（越後おぢや農業協同組合専務理事）

### ■事務局

企画政策課課長	山崎 淳
// 室長	遠藤 孝司
// 主査	増川 雅史
// 主査	近藤 圭介
// 主任	山村 綾乃

新潟県中越大震災から 10 年  
震災を乗り越え  
新しいまち・小千谷への挑戦  
—小千谷市復興計画の長期検証（総括）—  
平成 26 年 10 月 23 日発行

発行 小千谷市  
〒947-8501  
新潟県小千谷市城内 2 丁目 7 番 5 号  
TEL 0258-83-3511（代表）  
FAX 0258-83-2789  
URL [www.city.ojiya.niigata.jp/](http://www.city.ojiya.niigata.jp/)  
E-mail [plan@city.ojiya.niigata.jp](mailto:plan@city.ojiya.niigata.jp)  
編集 小千谷市企画政策課